

とちぎボランティアNPOセンター 主催  
「ボランティアとNPOの展望を語る座談会  
～多様な主体との協働によるこれからの栃木」  
第1部:2023年11月12日(日)13時30分～15時00分

# つながって前へ新しい一歩を ～今こそ市民やNPOの出番です～

社会福祉法人 大阪ボランティア協会  
常務理事・事務局長 永井美佳

email:nagai@osakavol.org

facebook:mika.nagai.3557 

Instagram:nagai\_mika 

Twitter:ngmkngmk 



①57周年：

日本で最も歴史の長い民間の市民活動推進機関

②参加の力：

ボランティア93人、有給職員15人  
組織内チーム制で協働運営体制

③ボランタリズム：

「市民自治」と「変革の実行」と「市民の力」  
にこだわる「市民参加オタク」！





**① NO VOUNTEER, NO LIFE.** ● 市民活動家の生きざまに衝撃を受け、この世界で生きることを決意

**②: つながる実感、ひろがる世界:** 目から鱗が落ちる 探求が止まらない 芋づる式世代、性別、属性、セクター、人種、文化、国境を越えて

**③ コーディネーション力:** 市民、ボランティア、NPO、企業、協同組合、行政、大学などあらゆる主体と主体をつないで創発を



- 好きなことば「やりたいこと・やるべきことは、やれるときにすぐ、やれるだけする」「止まない雨はない、明けない夜はない」。
- 好きな食べもの「コナモン」。
- 好きなもの「かえるグッズ」。
- よく言われる人物評「浪花節的」。

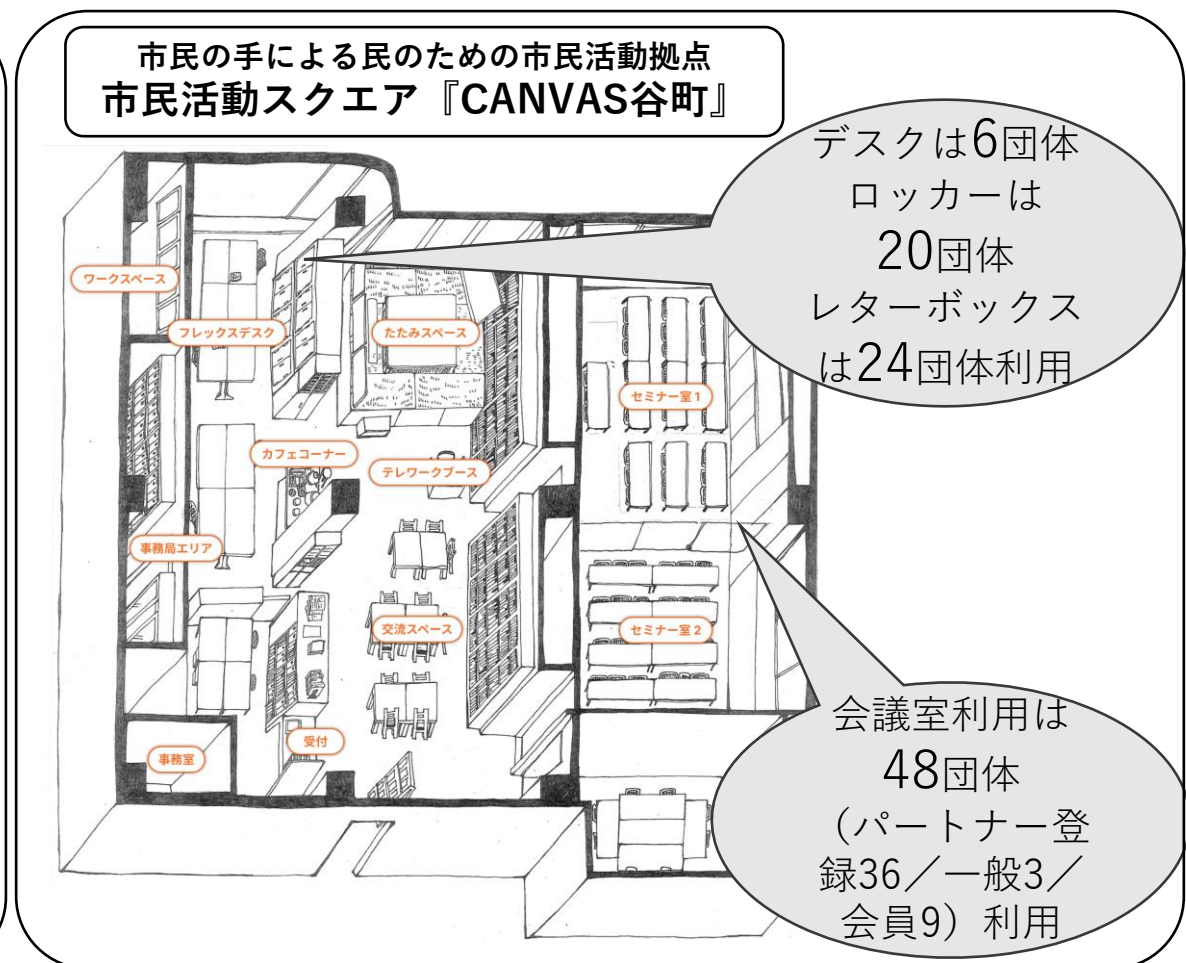
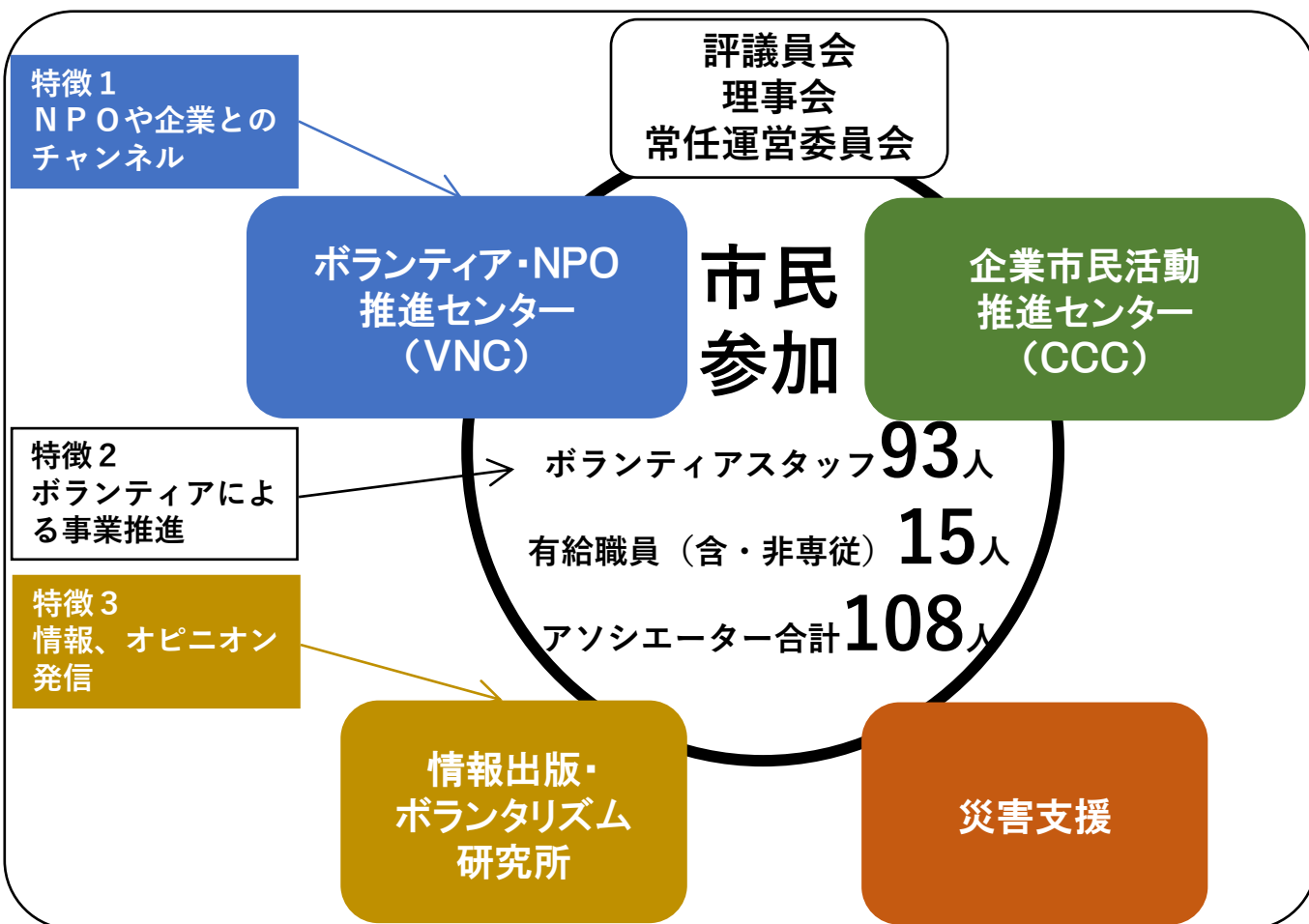




# 大ボラ協紹介、コーディネーション機関のモデルをめざす

●組織内に「ボランティア・NPO推進センター(VNC)」「企業市民活動推進センター(CCC)」の2つのセンターと、「情報出版・ボランティアリズム研究所」「災害支援」の2つの部門を持つ「市民活動総合支援センター」です。

●「市民参加」にこだわり、ボランティア93人と職員15人の計108人が協働しています。



# 大ボラ協のめざすところ・重きをおくところ



## ●ビジョン～「ポスト50年」行動宣言

協会は、多様な主体による連携と市民参加の促進によって、社会問題解決のためのソーシャルイノベーションを起こします。これらを仕掛け、社会にうねりをつくり出す**コーディネーション機関のモデル**となります。

- 重点事業①「**災害支援・防災**」／重点事業②「**社会的孤立の抑制・解消**」
- 機能①「**場づくり**」／機能②「**参加の促進**」／機能③「**理論化**」

## ●数字で見る2022年度実績



- 講座で学んだ人  
**8,863人**
- 活動体験した人  
**2,920人**



- ボランティアしたい相談  
**265人**
- チャットボット相談  
**828件**
- 応援求む相談  
**48人**
- コーディネート一般相談  
**107件**



- 災害支援ネットワークへの参加  
2回で、  
のべ**54団体**より  
のべ**99人**
- 災害支援・防災を  
テーマとした講師派遣  
**14件**



- 包括的ボランティア  
コーディネーションの  
視点を生かして、  
**参加型運営を  
実践・推進**



- 市民社会をつくるための  
ネットワーキング  
に参画  
**全27種**

# 大阪ボランティア協会のボランティアプログラム変遷

1970年「**高校生のためのボランティアスクール**」開始(～2005年)  
(障害児者入所施設でのワークキャンプ活動)

1984年「**サマーボランティア計画**」開始(～1998年)  
(高校生から大学生等を対象とした夏のボランティア活動の機会提供)

2010年「**ボランティアスタイル(ボラスタ)**」開始(～**現在**)  
(働きざかり世代に休日の新し過ごし方、3時間でできる活動)



2020年頃「**インクルーシブボランティア**」の本格的な提案(～**現在**)  
(人との関係づくりが苦手であったり、社会参加につながりにくい人の活動)

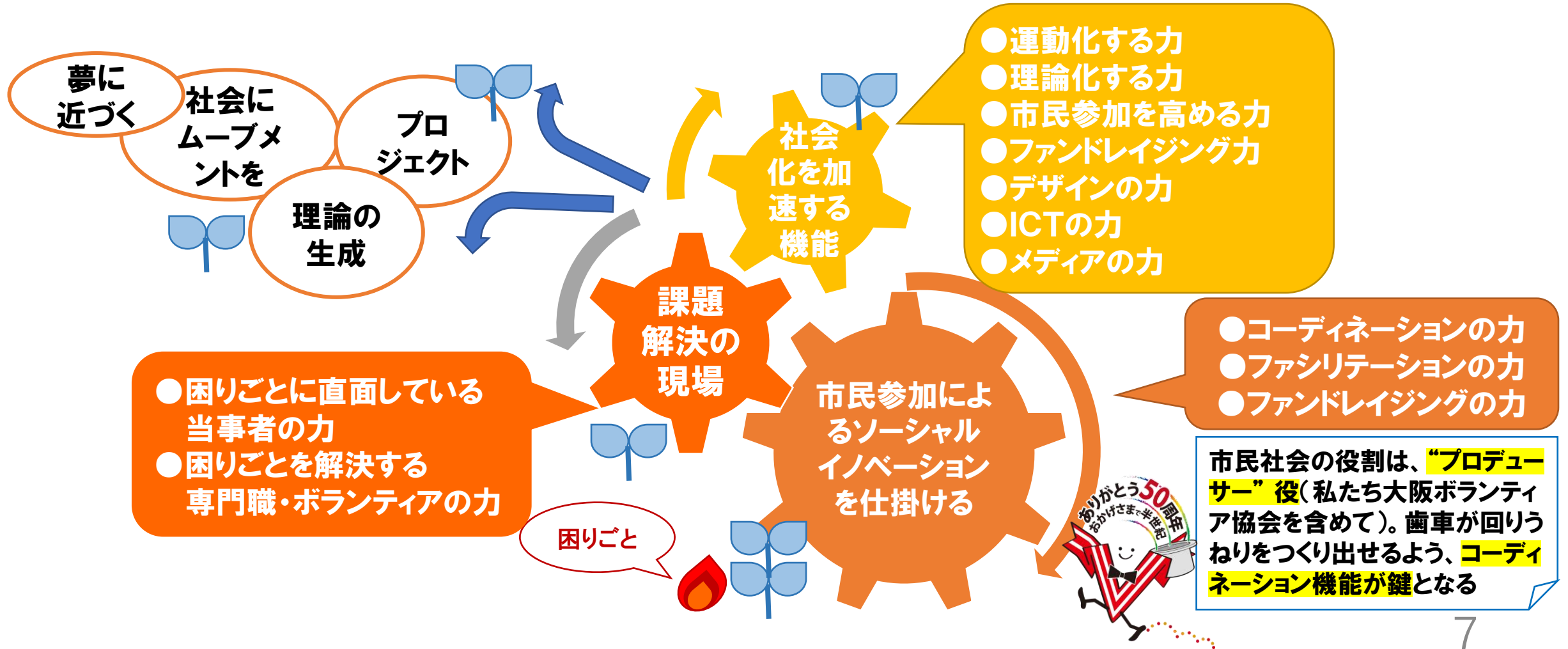
2022年「**ゆるいボランティアサークル(ゆるボラ)**」開始(～**現在**)  
(ボランティアサークル感覚で公式LINEに登録、活動への参加機会提供)



# 社会にうねりをつくり出すコーディネーション機関のモデル



## ● 困りごと (さまざまな社会問題) に 多様な力 を かみ合わせる (「ポスト50年」行動宣言より)



今日のお題



# 今日のお題

コロナの影響で、活動が縮小・低下した団体が多いが、  
アフターコロナにおいては、ボランティアやNPOに対する期待がより高まっている。

↓その心は、

アフターコロナにおいて、地域における**多様な人々のつながり**を作ること、  
県内各地で、**多様な小さな活動が無数に**あってほしい。

↓そのために今日は、

参加者が講演や座談会を聴き、参加者同士が意見交換することで、  
**今後の活動に活かせるような「気づき」や「元気」**を持ち帰ってもらいたい。

↓そこで今日のお題は、

- 話題① **時代のふりかえり**～ボランティア・NPO・企業CSRの立場より
- 話題② ボランティアの第一歩を踏み出せる機会・**バリア(障壁)を除く方策**とは
- 話題③ ボランティア・市民活動の**存在価値**をフレームワークで考える

# 話題①

時代のふりかえり

～ボランティア・NPO・企業CSRの立場より

# Volunteer

早瀬昇、筒井のり子著『ボランティアコーディネーション力 第2版』 P12-14 (2017年、中央法規出版発行)



shutterstock.com · 33917215



## 現代のボランティア

**志願者**(19世紀) / 自生植物  
社会問題解決活動を志願する

**志願兵**(18世紀後半@アメリカ)  
徴兵ではなく、自ら志願する。アメリカ独立戦争などでも活躍

**自警団**(17世紀前半@イギリス)  
自ら仲間と地域を守る。政府に頼らない

# ボランティア

早瀬昇、筒井のり子著『ボランティアコーディネーション力 第2版』 P10、17 (2017年、中央法規出版発行)



1970年：大阪ボランティア協会「高校生のためのボランティアスクール」開講  
(初期WC)

1912-1926(大正時代／20世紀前半)  
「ボランティア」という言葉は遅くとも大正時代に伝わる

1965(昭和40  
／20世紀後半)  
大阪ボランティア協会、日本初の「ボランティアスクール」開講

1969(昭和44)  
『広辞苑第2版』(岩波書店)に「ボランティア」という言葉が初めて載る

1995(平成7)  
阪神・淡路大震災で「ボランティア元年」化

2007(平成19)  
「ボランティア」の認知度(聞いたこと、または見たことがある)が95.4%





# NPO

早瀬昇、筒井のり子著『ボランティアコーディネーション力 第2版』（2017年、中央法規出版発行）



2002年：「大阪NPO  
プラザ」開所  
(2013年閉所)

1898(明治31)

民法施行。公益法人設立に政府の許可が求められ、法人管理体制始まる

1998(平成10)

NPO法制定。「協働」施策、各地で制定(1999)

2008(平成20)

公益法人制度改革開始、一般法人制度創設

2022

# NGO

早瀬昇、筒井のり子著『ボランティアコーディネーション力 第2版』（2017年、中央法規出版発行）



1960年：日本キリスト教海外医療協力会（JOCS）発足（写真：同会HPより）

1960(昭和35)

国際協力活動再開、日本で最初に設立された国際協力NGO「日本キリスト教海外医療協力会（JOCS）」発足

1987(昭和62)

ネットワークNGO「NGO活動推進センター（JANIC）」発足

2015(平成27)

SDGs:Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)を国連サミットで採択

2022(令和4)

# 企業の社会貢献・CSR

早瀬昇、筒井のり子著『ボランティアコーディネーション力 第2版』（2017年、中央法規出版発行）



1991年：大阪ボランティア協会「企業市民活動推進センター（CCC）」開設

1905-1912(明治後期)

企業の社会貢献活動が活発化  
企業創設の傍ら、社会活動に熱心に取り組んだ

1990(平成2)

冷戦終了後、企業の社会貢献活動が活発化  
「企業の社会貢献元年」

2003(平成15)

「CSR(企業の社会的責任)元年」  
2010(平成22)「ISO26000」(組織の社会的責任に関する手引き)発行

2015(平成15)

SDGsが共通言語に



# 時代のふりかえり～1990年頃-2010年頃

年月	主なNPO・支援組織の動き	年月	主な企業の社会貢献の動き
1989.4	・「日本ネットワークワーカーズ会議」結成	1990.2	・「企業メセナ協議会」設立
1991.7	・ドラッカー『非営利組織の経営』（ダイヤモンド社）刊	1990.11	・「経団連1%クラブ」設置
1994.6	・「『広がれボランティアの輪』連絡会議」結成	1991.4	・経団連が「経団連地球環境憲章」発表
1994.11	・「シーズ＝市民活動を支える制度をつくる会」結成	1991.9	・経団連が「企業行動憲章」を制定
1995.1	・阪神・淡路大震災発災に伴う災害ボランティア支援組織誕生	1991.10	・大阪ボランティア協会「企業市民活動推進センター」開設
1995.8	・シーズが「市民活動推進法（試案）」発表	1991.11	・「大阪コミュニティ財団」設立。
1995.12	・「NPO法」与野党案提示	1992.1	・関西経済同友会が「企業の社会貢献について」提言
1996.4	・神奈川県が「かながわ県民活動サポートセンター」設置	1992.2	・経団連が「第1回社会貢献フォーラム」開催（2008年度迄）
1996.11	・「日本NPOセンター」設立	1993.5	・「トヨタボランティアセンター」開設
1998.3	・「特定非営利活動促進法」公布、12月1日施行	1993.10	・大阪で「フィランソロピー・リンクアップフォーラム」（現「フィランソロピー・CSRリンクアップフォーラム」）結成
1999.8	・与野党国会議員による「NPO議員連盟」発足	1995.1	・阪神・淡路大震災復興支援の取り組み
2000.6	・「コミュニティビジネスサポートセンター」設立	1996.9	・国際標準化機構が「ISO14001」発表
2001.3	・「NPO支援税制」制定、10月1日施行。	1999.1	・アナン国連事務総長が「グローバル・コンパクト」提唱
2002.4	・日本NPOセンターが「市民社会創造ファンド」設置	2000.4	・東京労働金庫と近畿労働金庫が「ろうきんNPO事業サポートローン」開始
2003.8	・「会計税務専門家ネットワーク」設立	2000.8	・緊急人道支援のための「ジャパン・プラットフォーム」設立
2003.9	・「指定管理者制度」実施	2001.1	・「ボランティア国際年」
2004.12	・プロボノ推進を行う「サービスグラント」結成	2003.3	・経済同友会が企業白書「『市場の進化』と社会的責任経営～企業の信頼構築と持続可能な価値創造に向けて」発表
2005.1	・「全国NPOバンク連絡会」結成	2004.2	・経団連が「企業のCSR推進にあたっての基本的な考え方」発表、5月「企業行動憲章」改定
2005.4	・千葉県市川市で「1%支援制度」始まる	2008.12	・経済同友会が「価値創造型CSRによる社会変革～社会からの「信頼と社会課題に答えるCSRへ」と題する意見書発表
2006.6	・「公益法人制度改革」関連法公布、12月1日施行	2010.3	・経団連がシンポジウム「企業とNPOとのよりよい協働に向けて」開催（1%クラブ結成20周年記念に）
2007.7	・「CANPANセンター」設立	2010.11	・国際標準化機構が「ISO26000」発行
2009.1	・「日本ファンドレイジング協会」設立		
2009.3	・民主党政権「NPO法人会計基準協議会」結成		
2010.1	・「新しい公共円卓会議」発足、6月「新しい公共宣言」発表、10月「新しい公共推進会議」発足		
2010.3	・「ジャスト・ギビング・ジャパン」が日本最大の寄付サイト開設		



# 時代のふりかえり～ 2011年頃-2023年

年月	主なNPO・支援組織の動き	年月	主な企業の社会貢献の動き
2011.3	・クラウドファンディングサービス「READYFOR」「CAMPFIRE」提供開始	2011	・CSV（Creating Shared Value；共通価値の創造）という考え 方提唱
2012.2	・「休眠口座国民会議」結成	2011	・東日本大震災復興支援の取り組み
2012	・オンライン署名「change.org」提供開始	2012.6	・「日経ソーシャルイニシアチブ大賞」第1回表彰式（ <b>社会課題解決のビジネスアイデア創出</b> ）
2013.4	・内閣府「共助社会づくり懇談会」設置	2015.9	・国連総会で「 <b>持続可能な開発のための2030アジェンダ</b> 」を採 択
2014.4	・「休眠預金活用推進議員連盟」設立	2015	・「サイボウズNPOプログラム」開始（クラウドサービスを安 価に提供）
2014.6	・「全国コミュニティ財団協会」設立	2017.11	・経団連が「 <b>企業行動憲章</b> 」の第5回改定（SDGs視点、人権の 尊重を含める）
2016	・4月「 <b>非営利組織評価センター（JCNE）</b> 」設立、8月「 <b>社会的 インパクト・評価・イニシアチブ</b> 」設立、11月「 <b>日本レガシー ギフト協会</b> 」設立	2017.11	・経団連+1%クラブ「 <b>持続可能な開発目標（SDGs）への取り 組みに関する実態調査</b> 」を発表
2017	・2月「 <b>全国NPO事務支援カンファレンス</b> 」設立、3月「 <b>社会投 資推進財団（SIIF）</b> 」設立、10月「 <b>新公益連名</b> 」設立、12月 「 <b>休眠預金活用法</b> 」公布	2019.12	・後に「 <b>新型コロナウイルス感染症（COVID-19）</b> 」と呼ばれる ようになる新型肺炎患者が中国湖北省武漢市において発生
2019.11	・休眠預金等活用法の指定活用団体に「 <b>日本民間公益活動連携 機構</b> 」を指定	2020.1	・WHO「 <b>国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態</b> 」を宣言
2020.3	・「シーズ」が内閣府に「 <b>新型コロナウイルス感染症対応に係 るNPO法人の支援に関する要望書</b> 」を提出	2020.4	・新型コロナウイルス感染防止のため「 <b>緊急事態宣言</b> 」を発出
2020.4	・「 <b>休眠預金の活用</b> 」開始	2020.2	・全国すべての小中高、特別支援学校へ休校要請
2020.4	・不要不急な行動の自粛要請を受けて、ボランティア・NPO等 の <b>活動自粛ムードが広まる</b> 。一方で、コロナ禍ならではの <b>緊急 支援事業や活動プログラムが多数開発</b> される。	2020.4	・政府の <b>出社制限の要請</b> や働き方改革を受け、社会貢献活動の 自粛や見直しが広まる。一方で、コロナ禍ならではの <b>支援事業 や活動プログラムが多数開発</b> される。
2020.6	・「 <b>新型コロナウイルス緊急支援基金『私と地域と世界のファン ド #みんなおんなじ空の下』</b> 」を関西の市民社会と企業・団 体の協働で展開	2020.9	・経団連 <b>企業行動・SDGs委員会</b> 「 <b>社会貢献に関するアンケート 調査</b> 」「 <b>新型コロナウイルス（COVID-19）感染症に関する社会 貢献活動調査</b> 」を発表
2023.5	・5類感染症への移行で、ボランティア・NPO等の活動は本格的 に再開へ	2023.5	・ <b>新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行</b>

# 時代のふりかえり・概観～パートナーシップの観点より

## ●阪神・淡路大震災、東日本大震災の影響

- NPOなど市民社会は、阪神・淡路大震災を機にボランティアへの関心が高まる。東日本大震災を機に海外の人道支援が主だったNGOも、各テーマに取り組む国内NPOも、できることを見つけて支援活動を行った。
- 企業は、阪神・淡路大震災では救援物資や義援金を中心に、東日本大震災では義援金に加えて支援金の拠出、NPO/NGOとのパートナーシップによる支援など、支援内容や期間が多様になった。

## ●新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響

- NPOなど市民社会も、企業も、さまざまな行動規制や自粛を受けたが、それをバネに事業開発・活動開発を行った主体は事業・活動を活性化させた。一方、いまだ停滞・苦戦を強いられている面もある。

## ●グローバル社会の動きの影響

- NPOなど市民社会は、企業のCSR推進や社会貢献活動の動きや変化に影響を受けやすい。
- 企業は、グローバル社会の動きに敏感で影響を受けやすく、CSR推進や社会貢献活動にも影響が及ぶ。

## ●SDGsの影響

- NPOなど市民社会は、主にNGOはMDGsおよびSDGsの理念や動きをキャッチアップしてきたが、国内NPOは企業の動きや変化を通してSDGsに注目し、視点を取り入れている。
- 企業は、SDGsの導入に敏感でCSR推進や社会貢献活動の取り組みに大きな変化をもたらした。

# 時代のふりかえり・学び～現在や今後へのつながり

#災害多発時代 #災害支援活動と平時の活動の関連性 #フェーズフリー

#グローバルからローカルへ #ローカルからグローバルへ

#SDGsによる**共通目標化・共通言語化**

#パートナーシップの新しいスタイル

#**マルチステークホルダーエンゲージメント**

#インパクト #評価 #KPI

#丁寧で質の高いライフスタイルの選択 #**持続可能性の高いものを選択**

#じぶんごと #**社会課題の感知力と解決力**

#**対話力** #**レジリエンス力** #**越境**

#**多様な主体の参加**がかなう場のデザイン

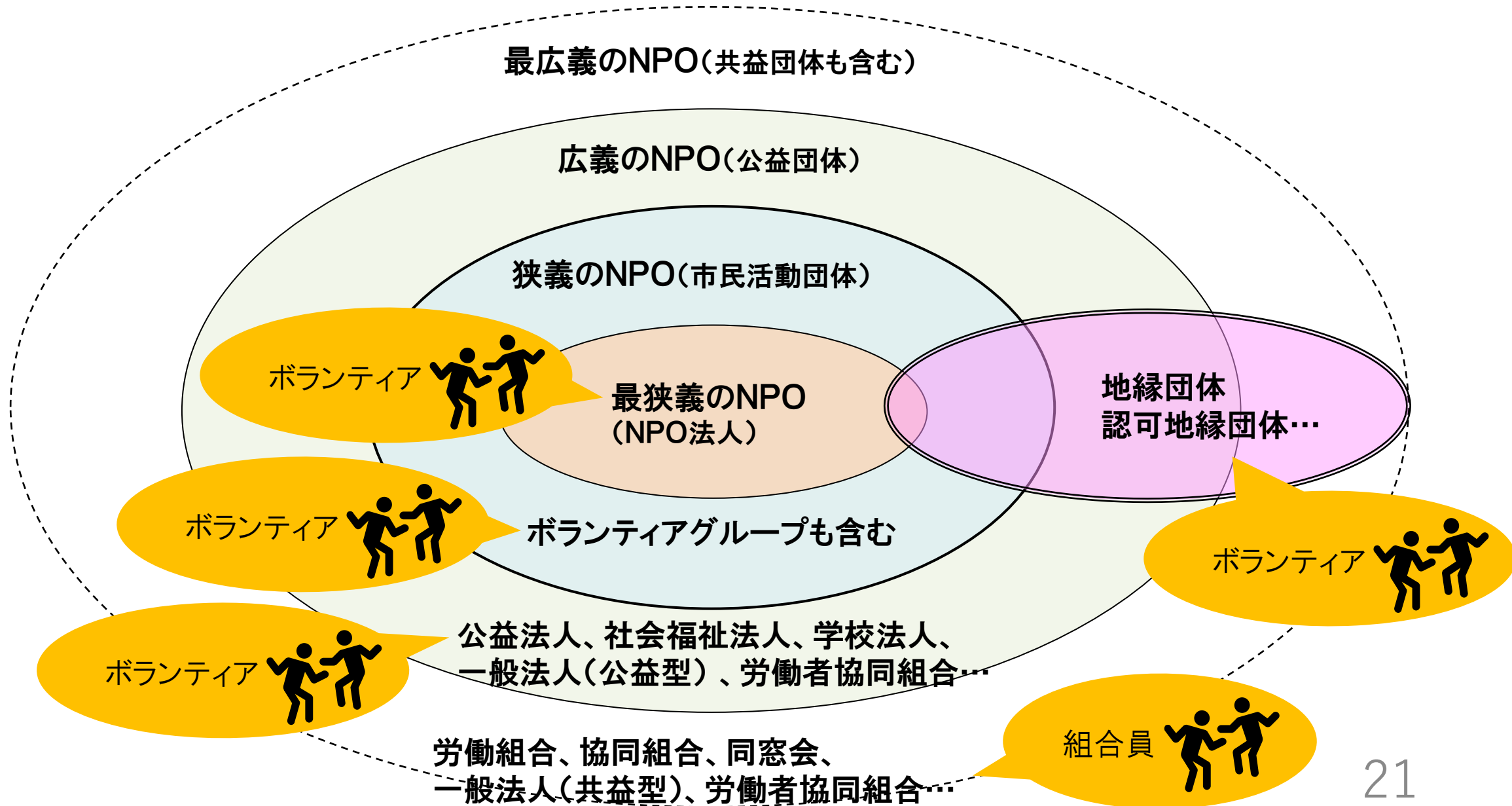
#人種、民族、ジェンダー、性的指向、宗教、心身機能、社会的階級、年齢など多様な社会的属性の中でとりわけ**周縁化されやすい人たちの声と向き合う**

## 話題②

ボランティアの第一歩を踏み出せる機会・  
バリア(障壁)を除く方策とは



# 多様なNPO概念とボランティアの関係



# 第一歩を踏み出せる機会・バリア(障壁)を除くヒント

モチベー  
ションと  
インセン  
ティブ

「できた」  
実感と  
「やる気」  
の高まり

「私発」×  
「開く」=  
「公共性」  
をもつ

# ボランティア、関心と活動経験のギャップ

早瀬昇、筒井のり子著『ボランティアコーディネーション力 第2版』 P11 (2017年、中央法規出版発行)



図1-1 ボランティア活動に対する関心の有無

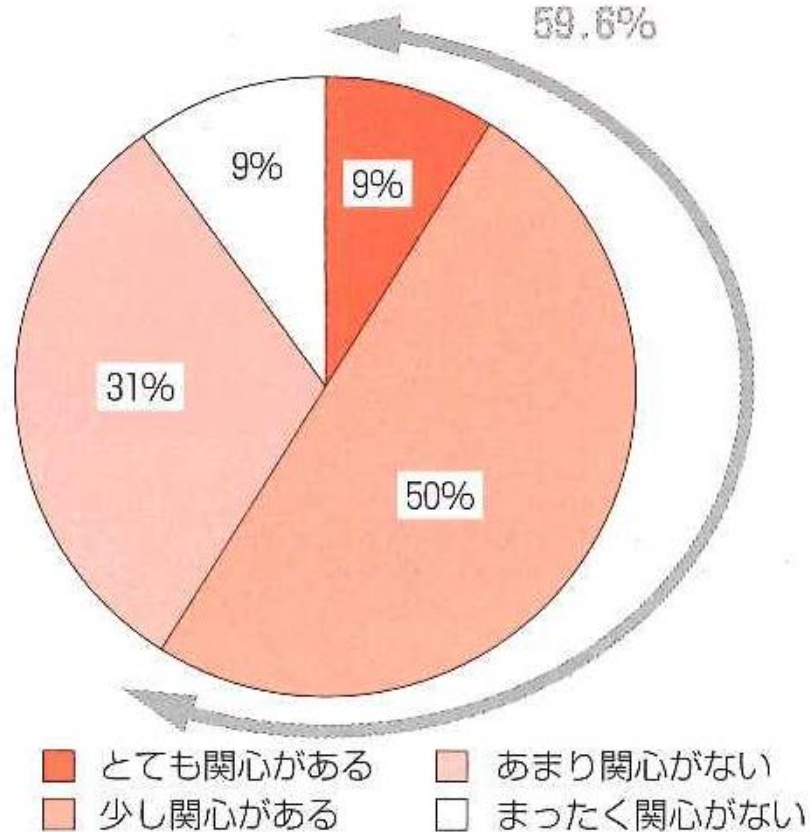
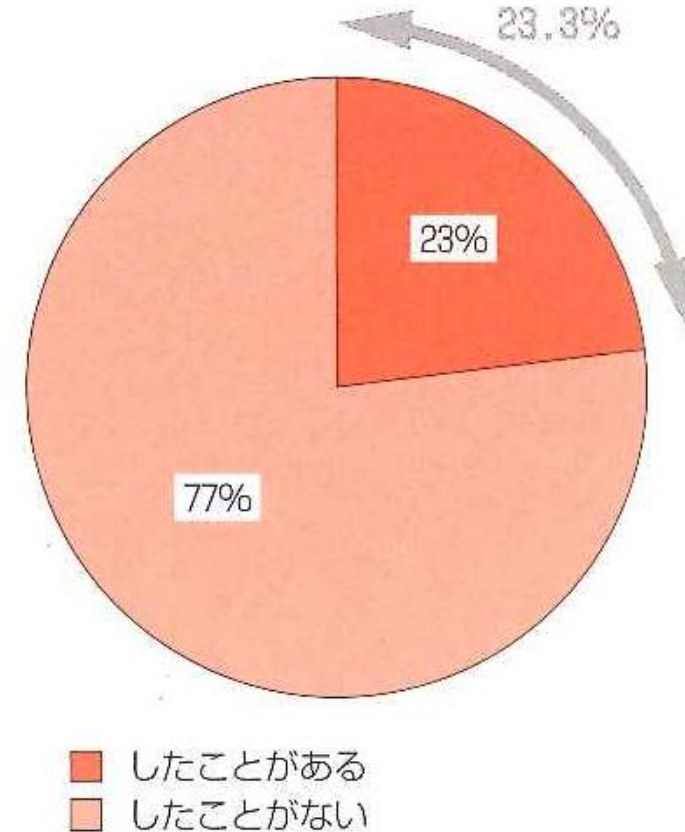
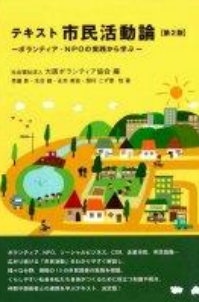


図1-2 ボランティア活動経験の有無



# ボランティア活動のキー概念

『テキスト市民活動論 第2版』P18-24（2017年、大阪ボランティア協会発行）



## ① 自発性

- …「するかしないか」自体が自由
- …言われなくてもすることだが、言われても（納得できないなら）しないこと

「放っておけない」  
「我慢できない」  
が自発性の正体

## ② 社会性（公益性・公共性）

- …民間社会活動の公益性は「不特定かつ多数の利益」
- …普段の暮らしを「開く」と公共的になる

「私」の活動も効果  
が“開かれる”  
と公共的になる

## ③ 無償性

- …「有償ボランティア」は「有償スタッフ」の呼称で
- …無償・有償の活動を包含する「市民活動」

システム化するほど  
「労働」に近づく  
「有償ボランティア」



# ボランティア活動の動機づけ(motivation)のプロセス

早瀬昇、筒井のり子著『ボランティアコーディネーション力 第2版』 P20 (2017年、中央法規出版発行)



満たされない  
「欲求」の存在

不満足...

欲求を満た  
そうと「探求  
行動」を

- 「動因」  
(動き出したい  
要因・やる気)  
をもっている。
- 行動すること  
で目標を達成。

「欲求」  
の充足

満足!

# 適切な誘因(incentive)の提供で、活動者を増やす

早瀬昇、筒井のり子著『ボランティアコーディネーション力 第2版』 P21 (2017年、中央法規出版発行)



# ボランティアに参加する「動機」(性別・年代別)

## ●全体

- 第1位 39.3% 自分自身の関心や趣味の活動から自然につながった
- 第2位 38.0% 社会やお世話になったことに対する恩返しをしたかった

## ●男性

- 第1位 42.1% 地域や社会を改善していく活動に関わりたかった
- 第2位 41.0% 社会やお世話人になったことに対する恩返しをしたかった

## ●女性

- 第1位 40.9% 自分自身の関心や趣味の活動から自然につながった
- 第2位 36.6% 社会やお世話になったことに対する恩返しがしたかった

## ●60代

- 第1位 45.8% 社会やお世話人になったことに対する恩返しをしたかった
- 第2位 39.6% 地域や社会を改善していく活動に関わりたかった

## ●20代

- 第1位 60.2% 自分の人格形成や成長につながることをしたかった
- 第2位 44.6% 自分自身の関心や趣味の活動から自然につながった

# ボランティア活動の内発的な意欲を高める鍵

早瀬昇、筒井のり子著『ボランティアコーディネーション力 第2版』 P25-26 (2017年、中央法規出版発行)



● 自律的に企画したり、決定できること



● 達成感、有能感を得られ、成長を実感できること



「やる気」があるから「できる」のではなく、  
「できた」実感が共有されることで「やる気」が高まる

● 意味があると実感できる活動ができること



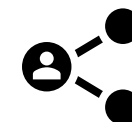
● 「ギブ&テイク」の関係を越えた「仲間・同志」の関係を築きやすいこと



● Priceless(価値がつけられないほど貴重)な取組みになり得ること



● 「私利私欲がない」行為が発信力・共感力につながり、人の輪が広がりやすいこと



皆さんの  
実感はど  
うです  
か？

# 「私発」×「開く」＝「公共性」を生み出す

早瀬昇、筒井のり子著『ボランティアコーディネーション力 第2版』 P24 (2017年、中央法規出版発行)



「私」の活動も効果が“開かれる”と、「公共性」を持ち出す

## ●「私のコレクション」×「開く」＝「美術館」

各地の私立美術館

## ●「家族のキャンプ」×「開く」＝「子ども会」

近所の家族と一緒に、地域に呼び掛けて、定期的にキャンプ

## ●「社員向け福祉更生施設」×「開く」＝「企業の社会貢献」

企業のグラウンドを、未使用時間帯に一般に呼びかけて“開放”する

## ●「私発(自発)の行為」×「開く」＝「公共性」をもち「社会的」になる

ポイントは、“普段の暮らし方”を“開いていく”こと

皆さんの身近な事例にはどんなことがありますか？



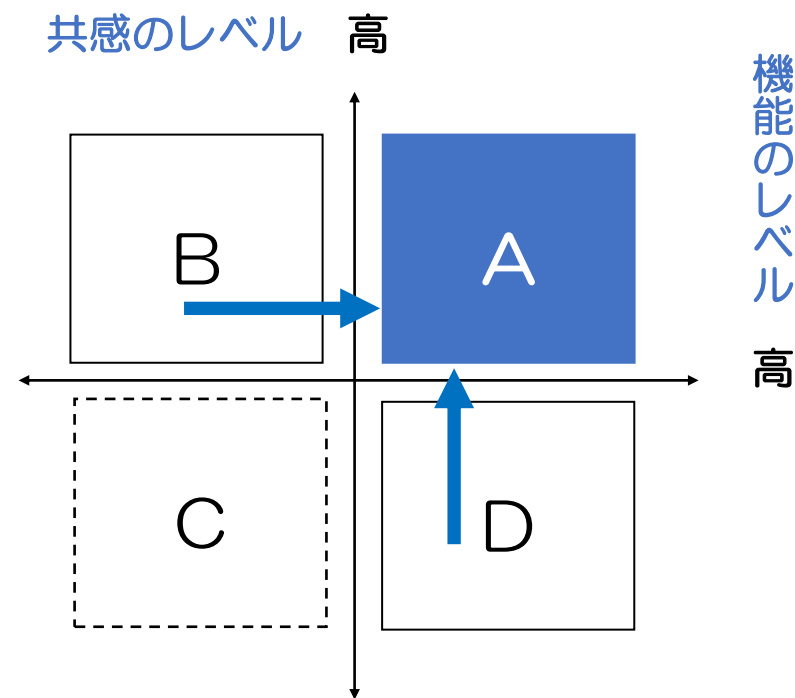
# 考え方のヒント:「共感」の行動原理

- 「共感」の行動原理を知っていれば、  
自分が選択をする際の判断材料になる。  
さらに、人を誘い、巻き込むときの参考になる！

…めざすは、Aゾーン

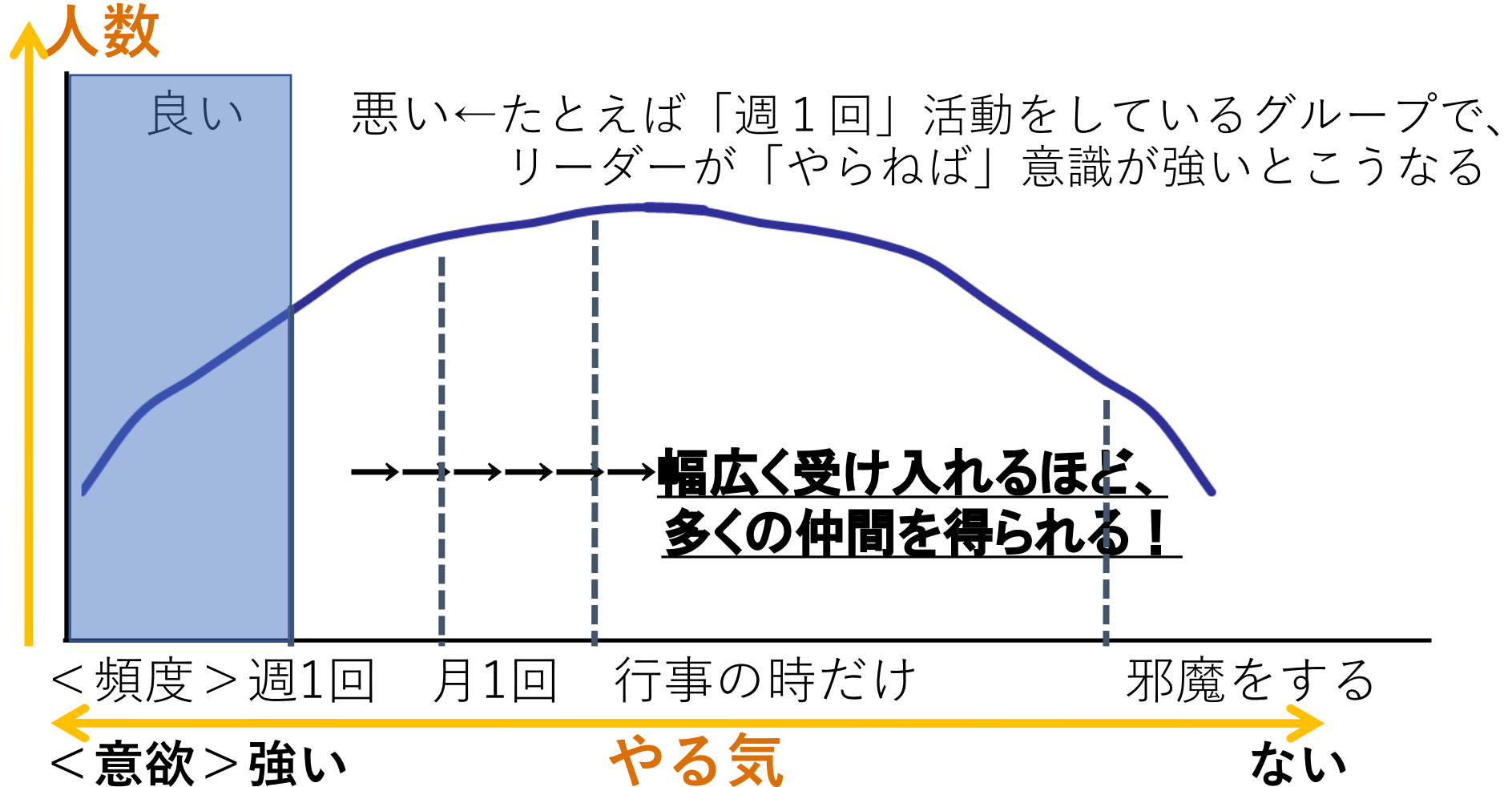
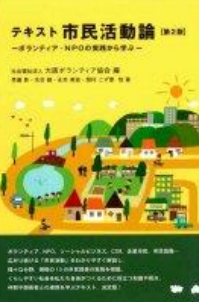
気持ちがあり、  
活動をするための条件もあう。

はたらきかけのキギは、  
B→Aゾーン(機能のレベル向上)か  
D→Aゾーン(共感のレベル向上)か



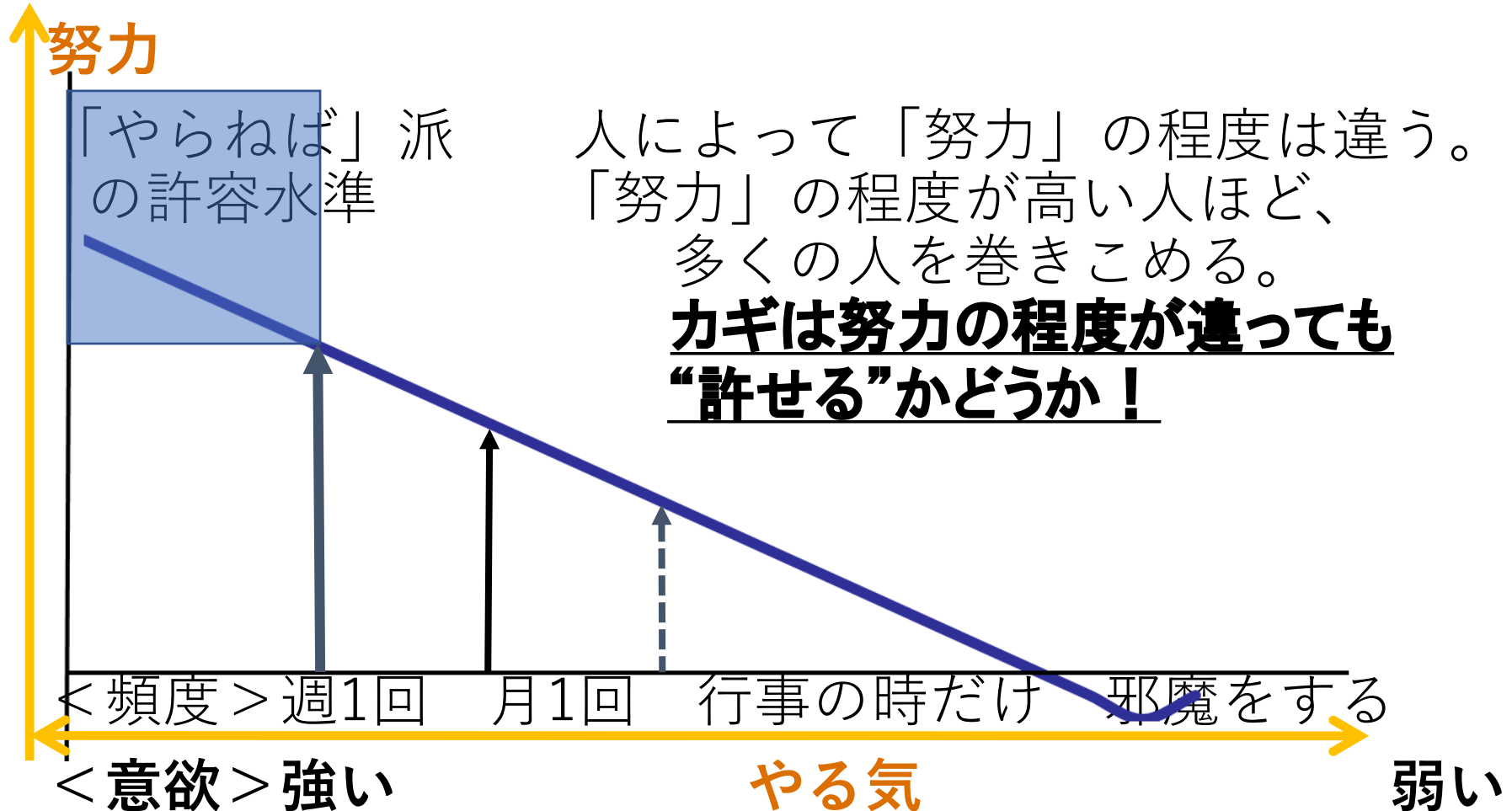
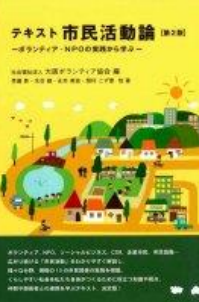
# 考え方のヒント: 「意欲・やる気」と「人数」の関係

『テキスト市民活動論 第2版』P75 (2017年、大阪ボランティア協会発行)



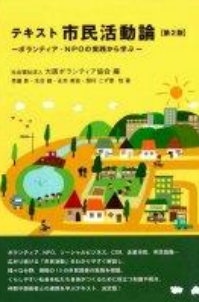
# 考え方のヒント: 「意欲・やる気」と「努力」の関係

『テキスト市民活動論 第2版』P76 (2017年、大阪ボランティア協会発行)



# ボランティア活動の強み～こんなに自由

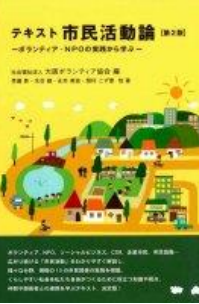
『テキスト市民活動論 第2版』P10-17（2017年、大阪ボランティア協会発行）



- **ボランティア活動に窮屈なイメージが伴いがち**
  - 公共的な取り組みだが、行政のように公平・平等でなくてよい
  - 「思いつき」「独創的な発想」「自分の好みや関心」…すべてOK
- **気軽な気持ちから広がる出会い**
  - ちょっとした出会いや気づき、こだわりや思いつきから始めてよい
  - 最初は衝動や単なる好奇心から始める場合さえある
  - 「ほうっておけない」という気持ちの高まりから始まる「災害ボランティア」
  - 「ボランティア体験講座」を受講したら仲間ができて一緒に活動を始めた
  - 「感動」「怒り」「充実感」の重なり …「しなければならぬ活動ではない」
  - ボランティア活動は、夢や願いを共有するさまざまな仲間と出会える活動
- **「行政の穴埋め」役にとどまらないボランティア活動の潜在力**
  - ① 個々に応じられるがゆえの「温かさ」
  - ② 多彩さ
  - ③ 機動性
  - ④ 先駆性、開拓性、創造性、もう一つの民間活力
  - ⑤ 市民が「当事者」になる機会を創り、自治力を高める
  - ボランティア活動は、社会の仕組みを柔軟に創造的にする可能性がある

# ボランティア活動の弱点と克服策①

『テキスト市民活動論 第2版』P24-25（2017年、大阪ボランティア協会発行）



## ●自発的な活動ならではの留意点

### ①全体への「影響」の配慮

→全体状況を見極めずとも動ける反面、全体のバランスを崩すことも

### ②「独りよがり」「マンネリ化」の危険性

・「効果」の評価が難しい活動

→活動の成果や効果を定量的な形で把握する努力を進めることが重要

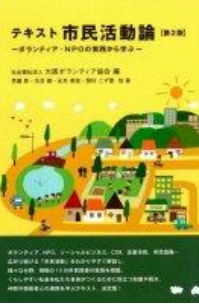
・「善行意識」の落とし穴

→「正しいからする」という姿勢は、自らの発想や方法論を絶対化し、  
少し違う動きや考え方を排除しやすくなりがち



# ボランティア活動の弱点と克服策②

『テキスト市民活動論 第2版』P26-27（2017年、大阪ボランティア協会発行）



## ●“仕方なく選ばれる”ボランティア

- 「与える人」「受ける人」という関係から、同じ夢や願いを共有する“同士”へ
- 両者の間に対等な協働関係を築く専門職が“ボランティアコーディネーター”

## ●「自発性パラドックス」

①人権の「擁護」はできても「保障」は難しい

②「自発性パラドックス」の克服策

（パラドックス＝逆説。自分で進んでとった行動の結果として自分自身が苦しい立場に立たされること）

- 現実を受け止めて、対策を組立直す
- 現状改革の運動を進める
- 支援者を確保する

## 話題③

ボランティア・市民活動の存在価値を  
フレームワークで考える

# 考え方のヒント: 思いをカタチして、アクションへ

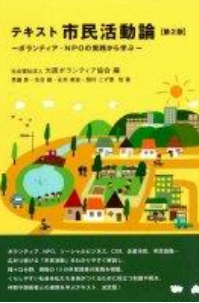
思い  
(Will-  
Wish)

ニーズ  
(Needs)

技量  
(Can)

# 考え方のヒント: 思いをカタチにして、アクションへ

『テキスト市民活動論 第2版』P78-79 (2017年、大阪ボランティア協会発行)



**① 思い (Will・Wish)**  
…私(たち)がやりたいこと

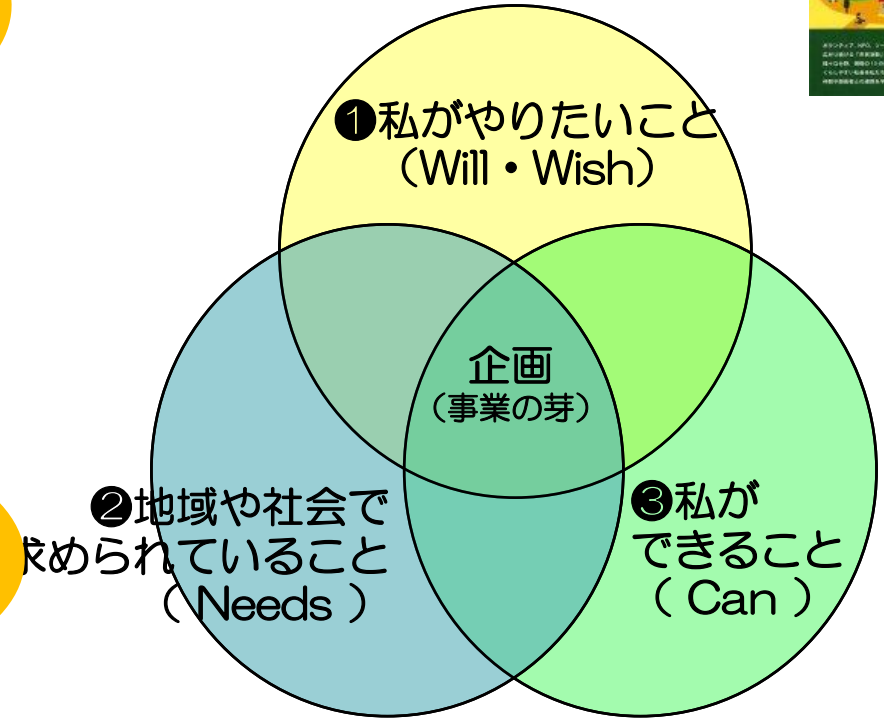
私が気になったり、困ったりしていること

**② ニーズ (Needs)**  
…社会や地域で求められていること

他の人も気になったり、困ったりしていること

**③ 技量 (Can)**  
…私(たち)ができること  
…できる人に協力してもらってもOK

私、または気になって  
いる人と一緒に  
できること

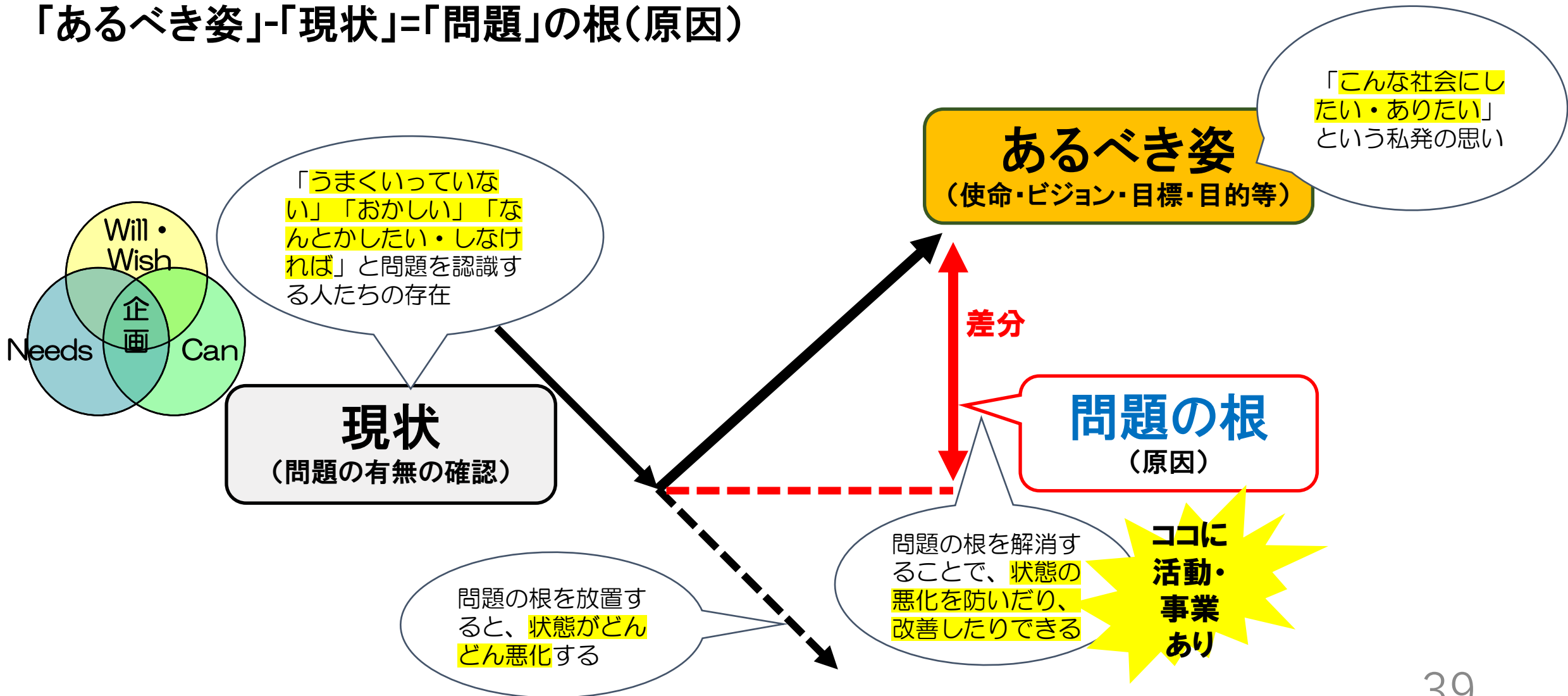


**①②③の要素が重なり合ったところに企画＝事業の芽 (Seeds) あり**

# 考え方のヒント:「あるべき姿」-「現状」=「問題」の根(原因)

## ●問題をあぶりだす計算式

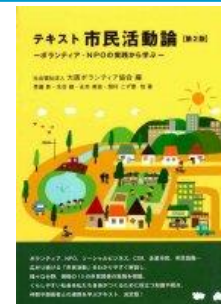
「あるべき姿」-「現状」=「問題」の根(原因)





# 考え方の事例：思いをカタチにして、アクションへ

『テキスト市民活動論 第2版』P78-79（2017年、大阪ボランティア協会発行）



## ① 思い (Will・Wish)

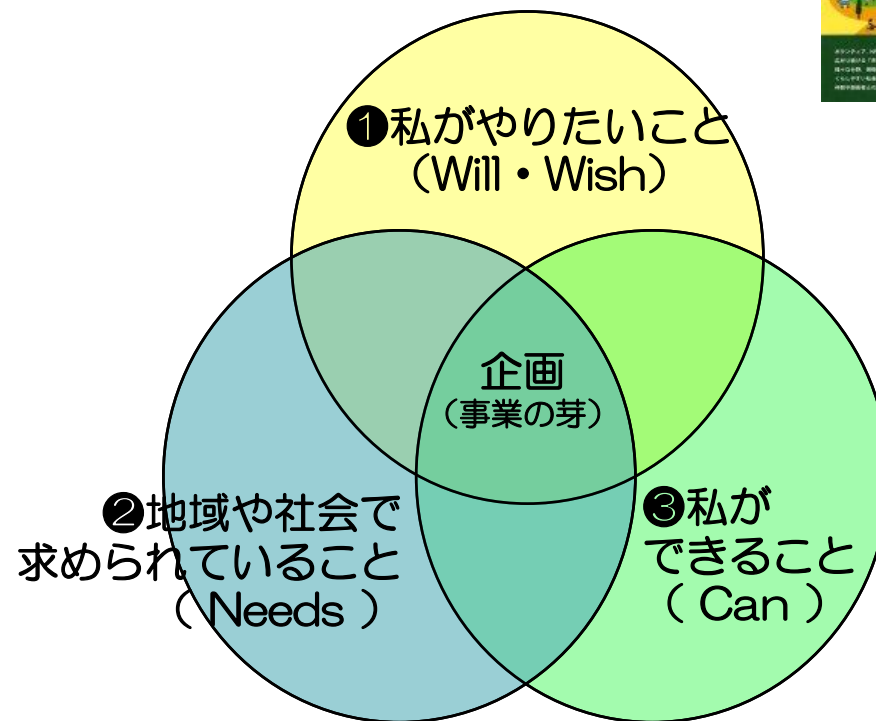
コロナ禍でボランティア活動は不要不急では…と言われる。しかし、こんな事態だからこそ、ひとりぼっちで暮らす〇〇さんの様子が気になる。何かできないだろうか。

## ② ニーズ (Needs)

〇〇さんらに直接会えないならば、お手紙を送るのはどうだろうか。返信用はがきを用意して、コロナ禍の近況を教えてくださいようようにすれば、新たなニーズが見えてくるかも！

## ③ 技量 (Can)

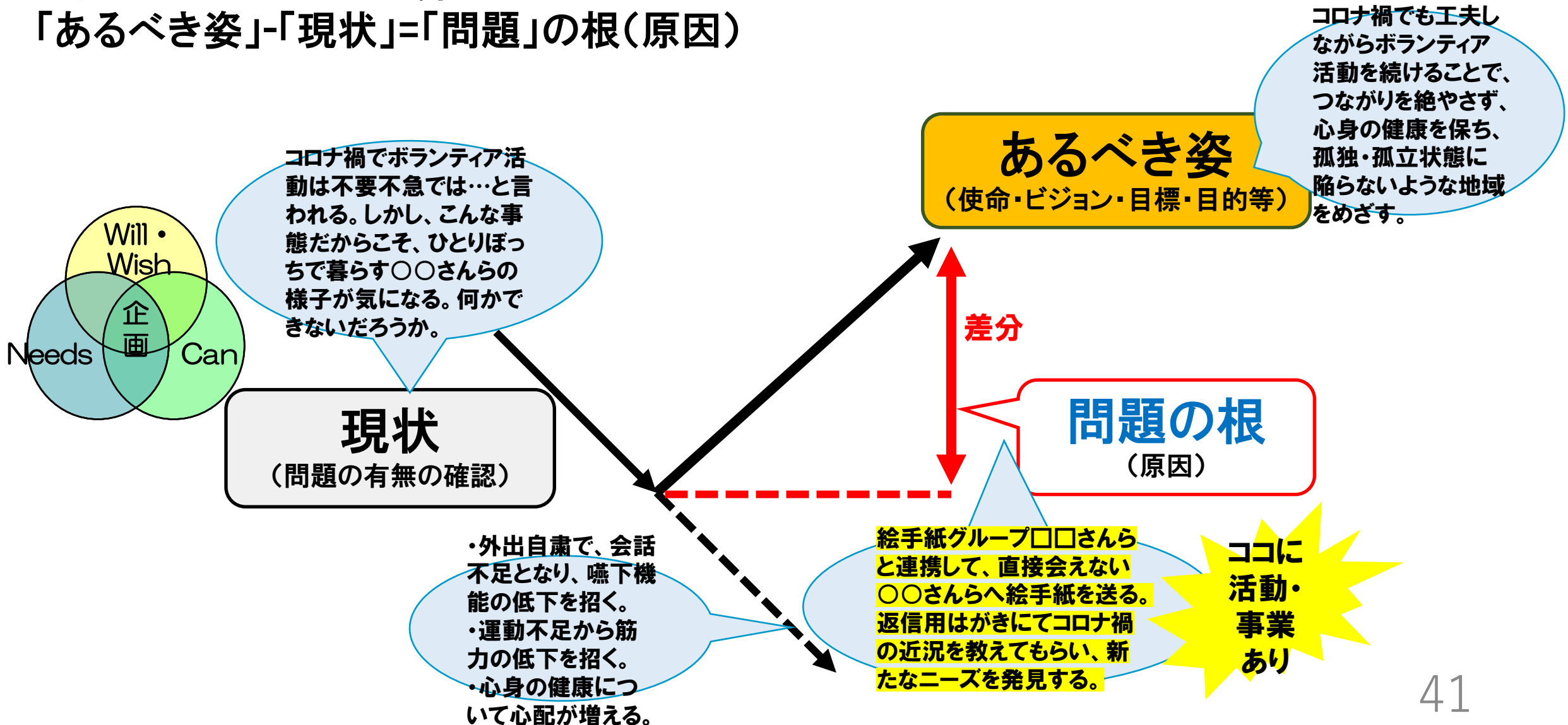
絵手紙のようなきれいで心やすらぐお手紙で送るのがいいかも。ボラ連メンバーの絵手紙グループ□□さんに相談してみよう！



# 考え方の事例:「あるべき姿」-「現状」=「問題」の根(原因)

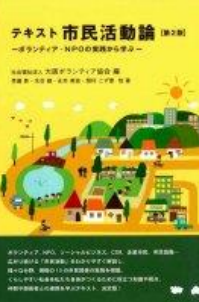
## ●問題をあぶりだす計算式

「あるべき姿」-「現状」=「問題」の根(原因)



# 考え方の事例：思いをカタチにして、アクションへ

『テキスト市民活動論 第2版』P78-79（2017年、大阪ボランティア協会発行）



## ① 思い (Will・Wish)

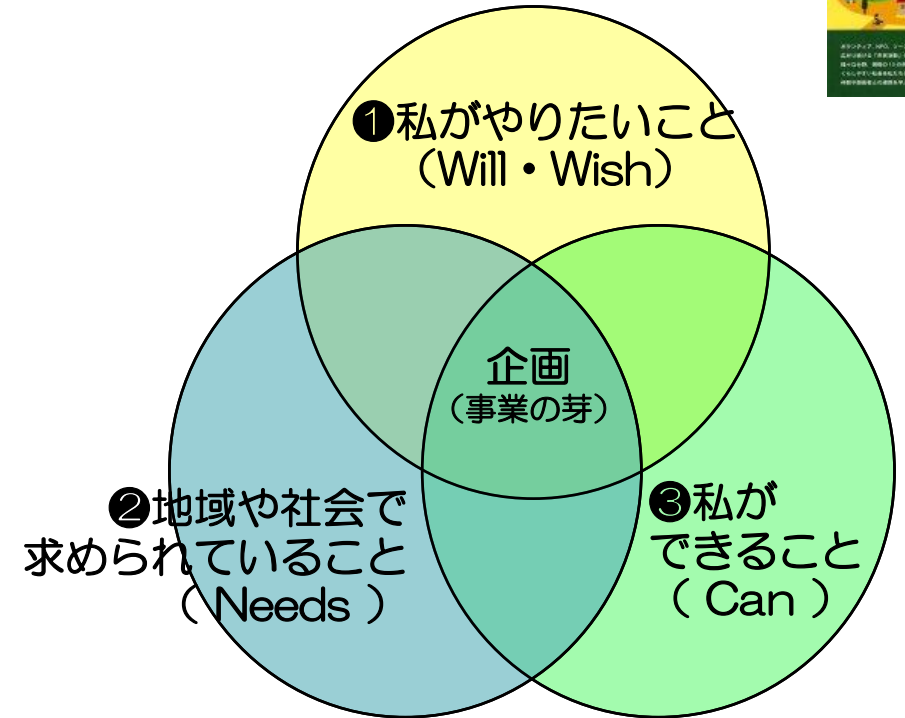
「ヤングケアラー」の存在が気になる。うちの地域で困っている若者はいらるだろうか。自分も何か力になりたい。

## ② ニーズ (Needs)

うちの地域の民生委員・児童委員は「ヤングケアラー」の把握をしているだろうか。今度、尋ねてみよう。

## ③ 技量 (Can)

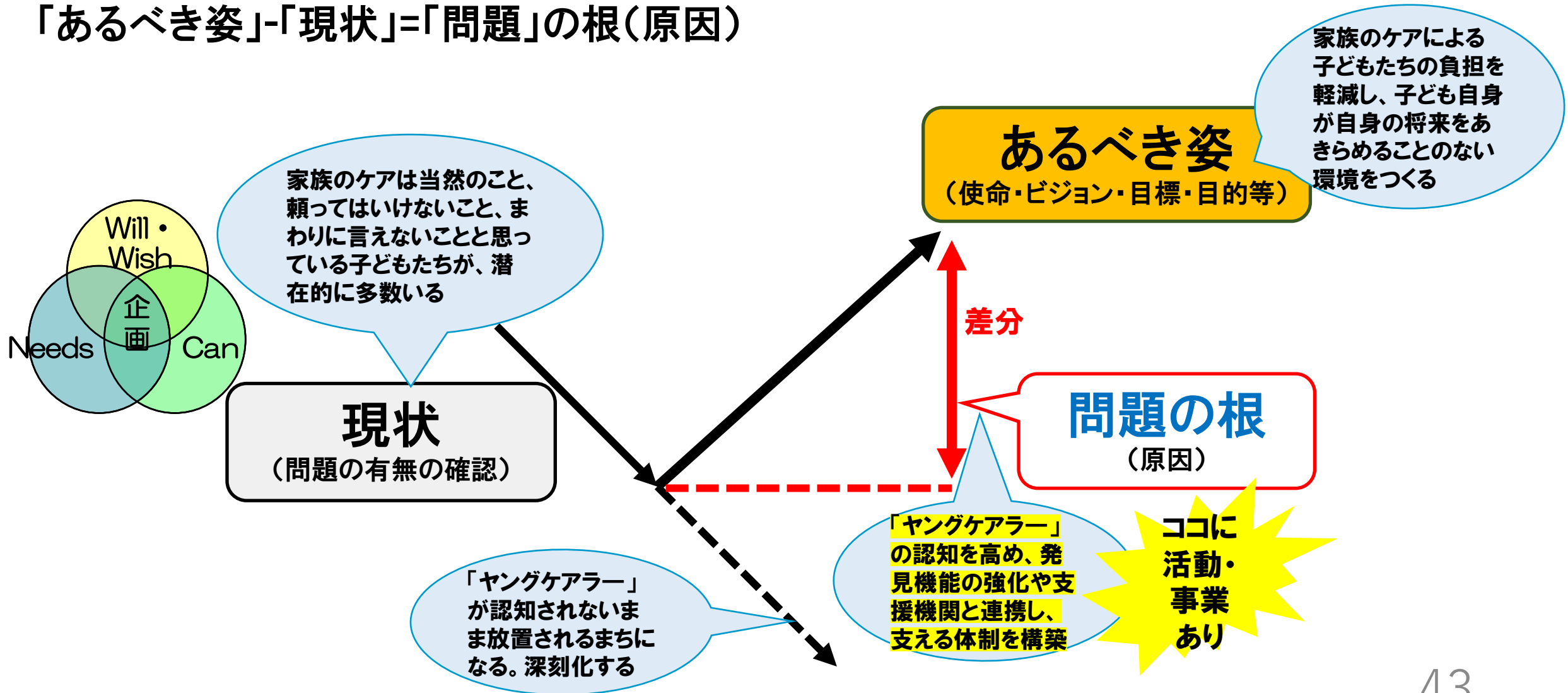
「ヤングケアラー」のことを取り上げた番組や勉強会があるみたい。勉強会に参加して理解を深めよう。



# 考え方の事例:「あるべき姿」-「現状」=「問題」の根(原因)

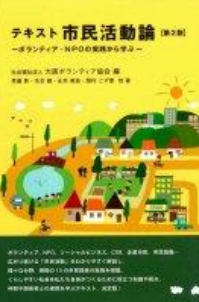
## ●問題をあぶりだす計算式

「あるべき姿」-「現状」=「問題」の根(原因)



# あなたのことばで：思いをカタチにして、アクションへ

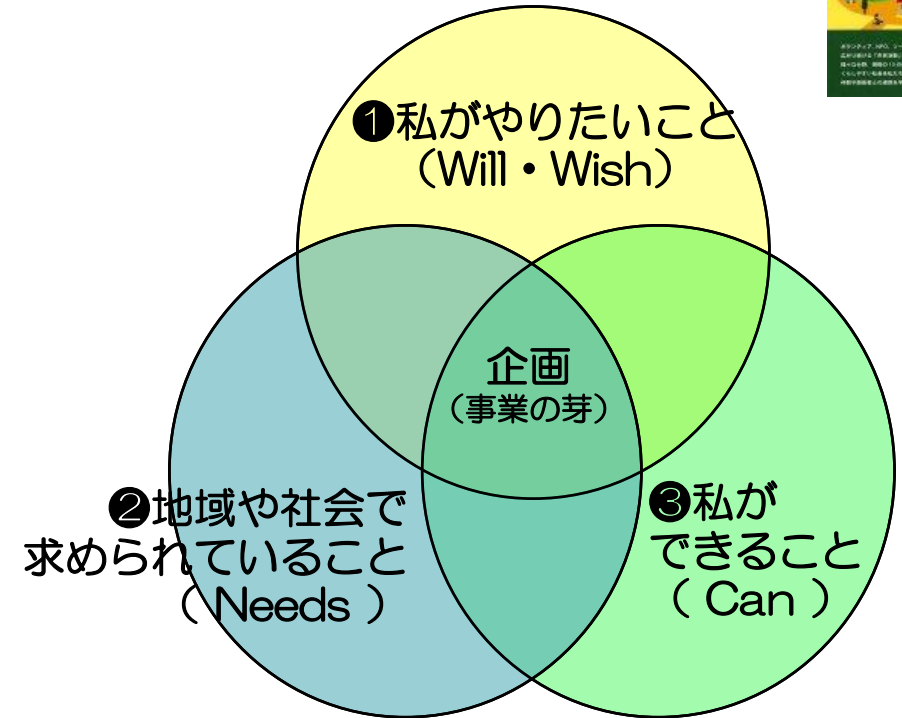
『テキスト市民活動論 第2版』P78-79（2017年、大阪ボランティア協会発行）



## ① 思い (Will・Wish)

## ② ニーズ (Needs)

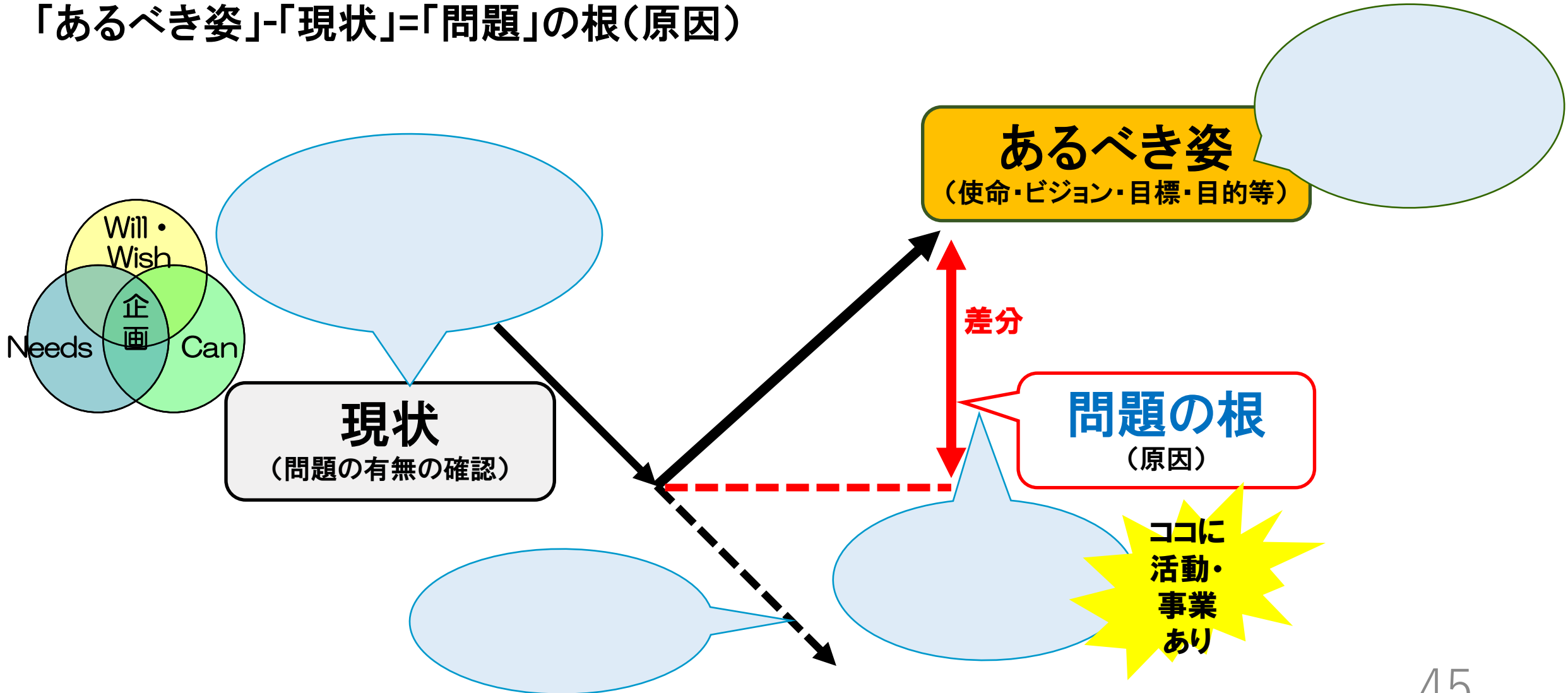
## ③ 技量 (Can)





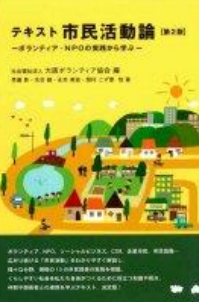
# あなたのことばで:「あるべき姿」-「現状」=「問題」の根(原因)

- 問題をあぶりだす計算式  
「あるべき姿」-「現状」=「問題」の根(原因)

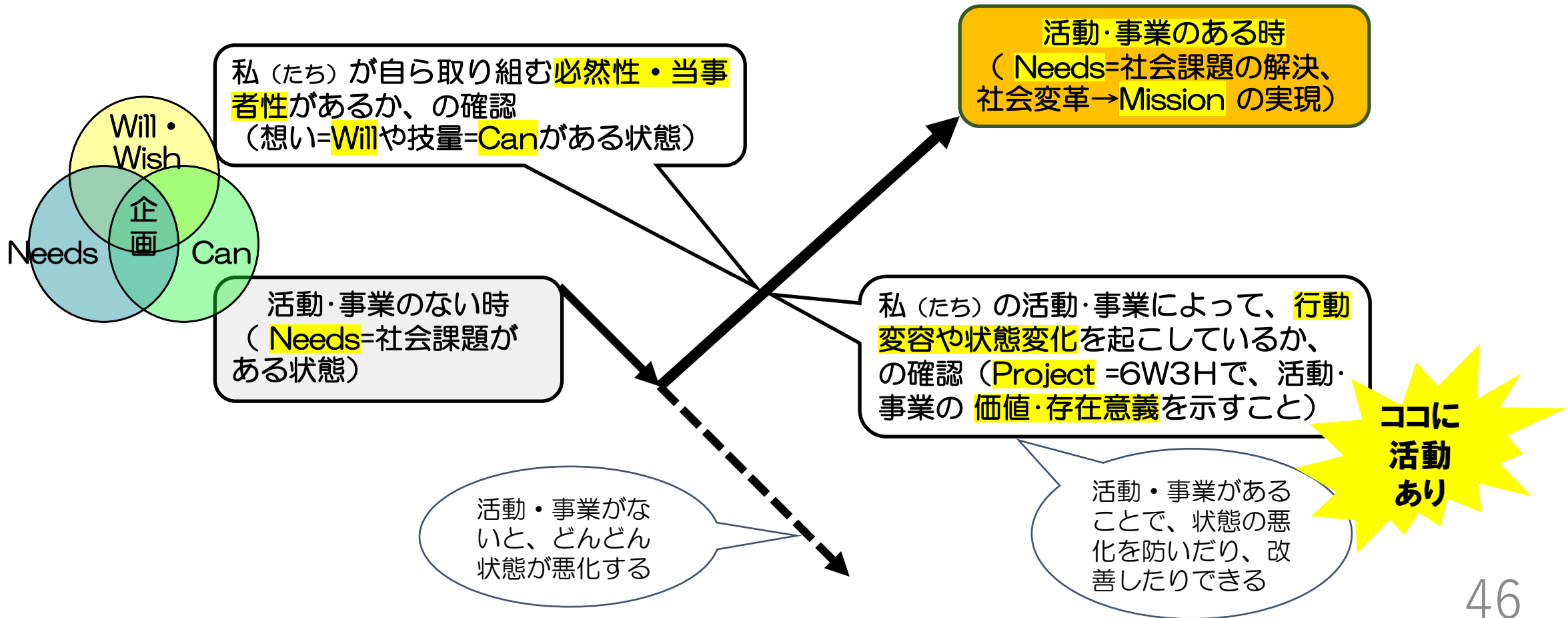


# 考え方のヒント: 社会的活動・事業の存在意義

『テキスト市民活動論 第2版』P80 (2017年、大阪ボランティア協会発行)



- 活動・事業がある時とない時。ある時に笑顔は増える？  
多様な担い手が連携している時、そこに笑顔は増える？



**考え方のヒント:なくてはならない事業であるために**

どうすれば「**なくてはならない存在**」になれるのか。

それは**状況に変化をもたらす取り組み**を*行い続ける*こと。



「**〇〇(ニーズのある人たち)の〇〇な状況・状態(現状)が、**

**〇〇によって(この事業で)、〇〇になる(解決する)」**

「**〇〇(この事業)を実施しなければ、〇〇な状況・状態(現状)が悪化する**ので、**今すぐ取り組む(解決する)必要がある**」



**で、単独でや(れ)る？誰かと協力・連携してやる？**

# あなたのことばで:なくてはならない事業であるために

「〇〇(ニーズのある人たち)の〇〇な状況・状態(現状)が、  
〇〇によって(この事業で)、〇〇になる(解決する)」

「〇〇(この事業)を実施しなければ、〇〇な状況・状態(現状)が悪化するので、  
今すぐ取り組む(解決する)必要がある」

で、誰かと協力・連携してやるのか？

# 共生社会～ちがいととともに生きる、ちがいをチカラに

出典 『ボランティア・NPO用語事典』P.24～25(田村太郎)より(大阪ボランティア協会編集・中央法規発行)

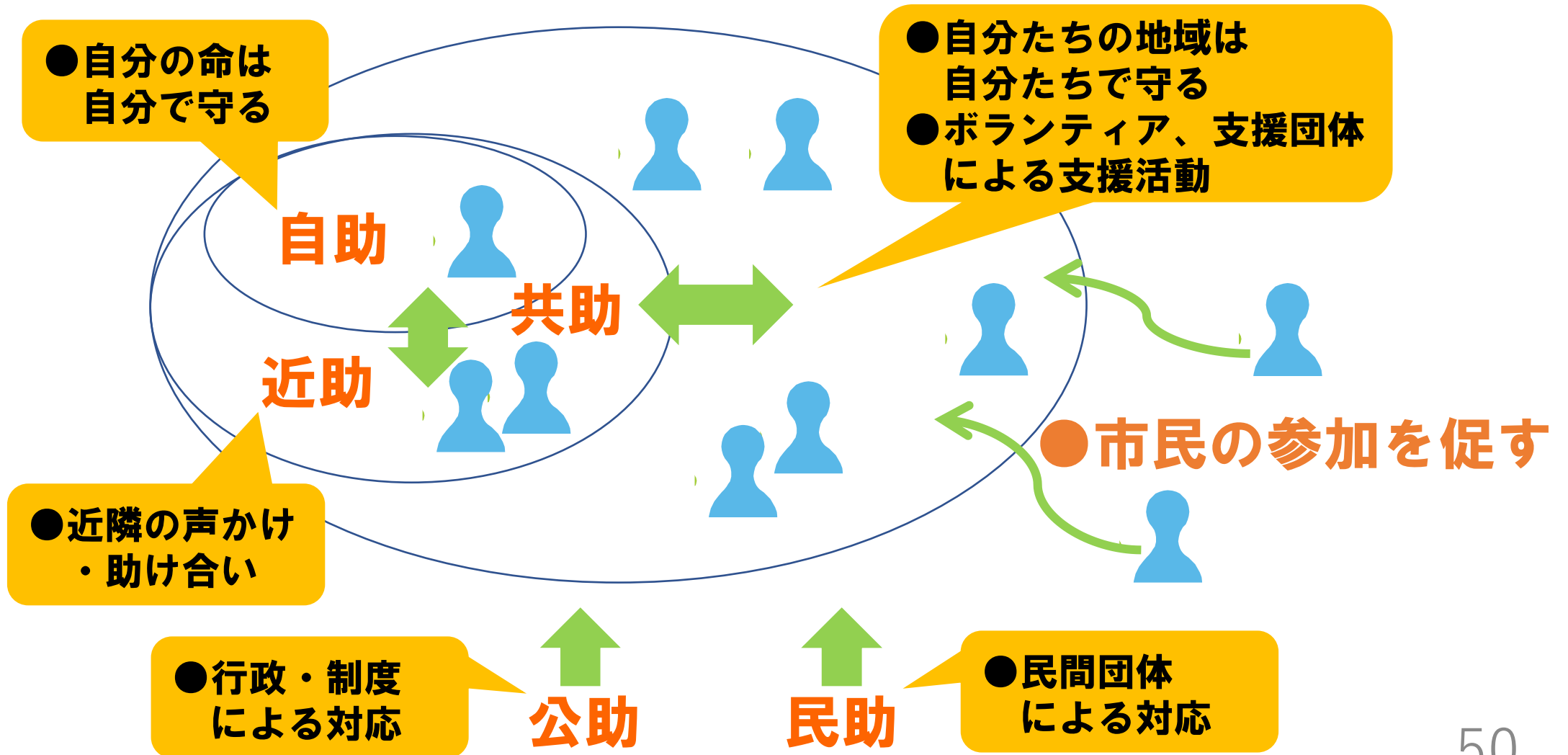
## ちがいへの対応と共生の位置



## 共生の状態・3つの視点

- 「あってはならないちがい」の解消  
→ 基本的人権の保障、  
機会の均等化
- 「なくてはならないちがい」の保障  
→ 少数者の力づけ、多  
様なありようの尊重
- 「ちがいを越えた協働」の実現  
→ 多数者の変化、社会  
全体の変革

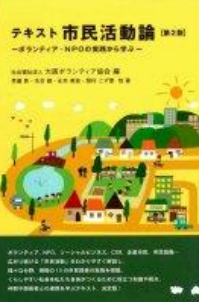
# ささえあいによる共生社会～自助・近所・共助・公助





# 考え方のヒント:イノベーションを生み出す組織論

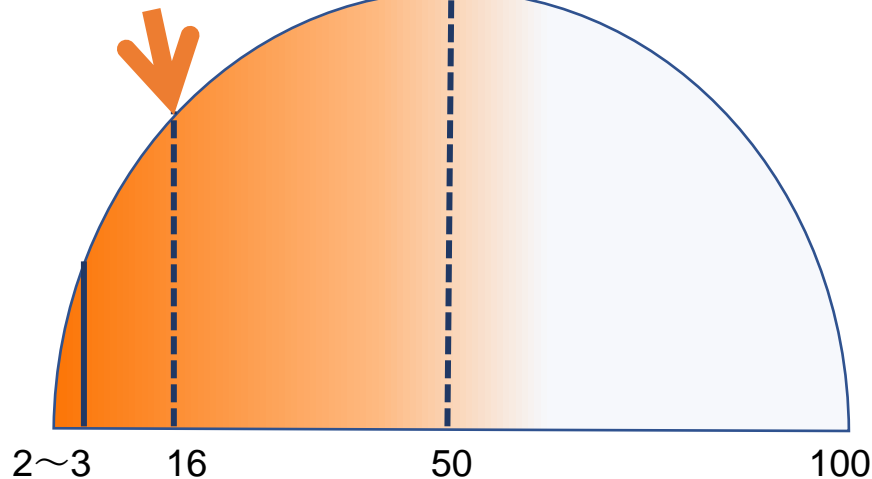
『テキスト市民活動論 第2版』P31 (2017年、大阪ボランティア協会発行)



## ●創造的で開発力の高い組織となるために

- ①先駆者・開発者は孤独なもの
- ②少数派としての市民活動

イノベーターとアーリー・アダプター  
ブレイクスルーポイント



「イノベーション普及学」(米国社会学者:エベレット・ロジャース)

### イノベーター(innovator)

2~3% ...新しい物好き、冒険をいとわない

### アーリー・アダプター(early adaptor)

13~14% ...常識もふまえつつ、ノリがよく進取の気性に富む  
イノベーターの可能性を早い段階で評価する

### アーリー・マジョリティ(early majority)

34% ...比較的慎重で、アーリーアダプターに相談、追随する人

### レイト・マジョリティ(late majority)

34% ...仲間の圧力がないと動きださない多勢順応型の人

### ラガード(laggard) ...のろまの意

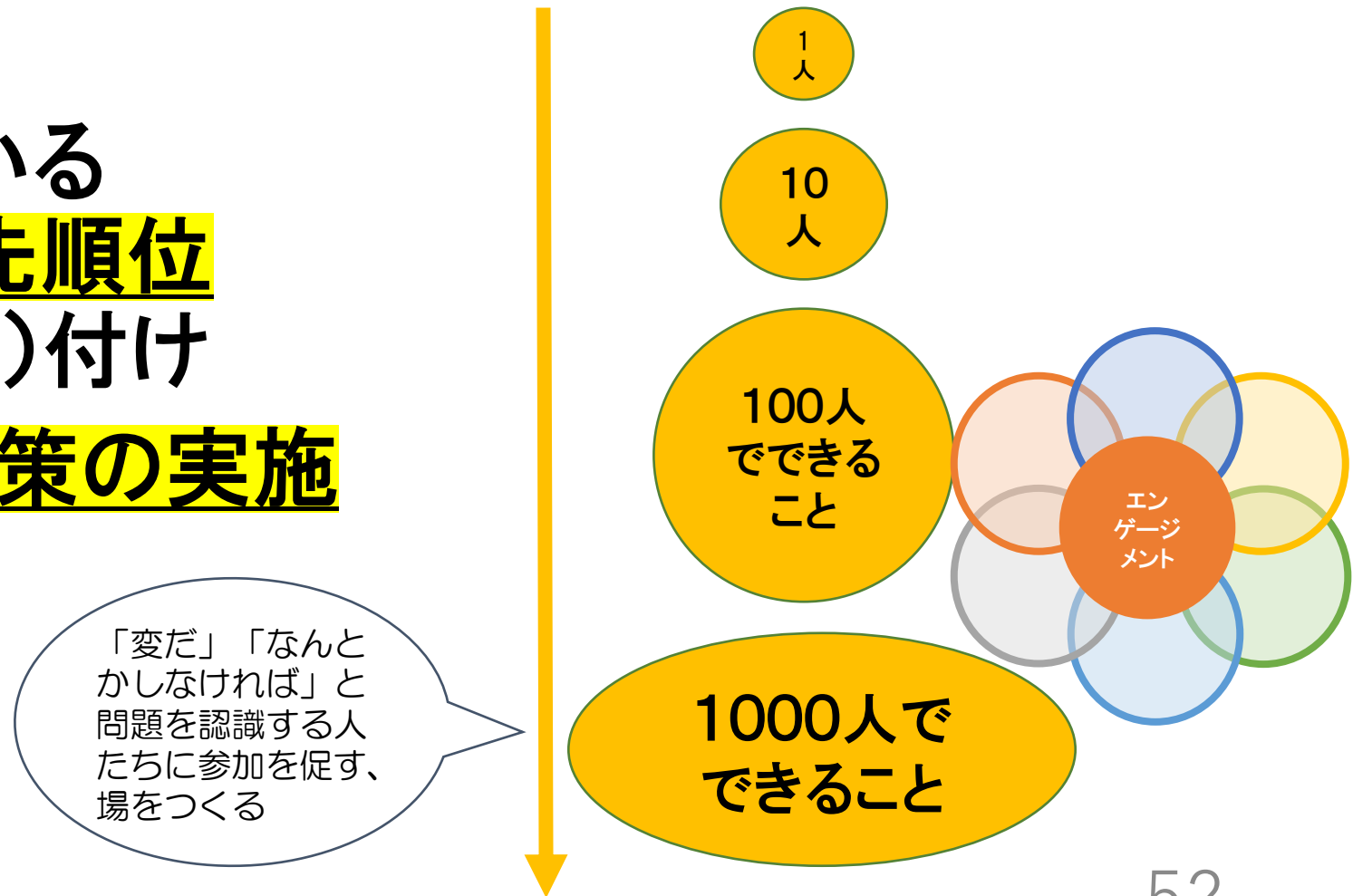
16% ...伝統志向

# 考え方のヒント:問題解決の基本手順①

問題解決のプロセスに市民の参加を促す

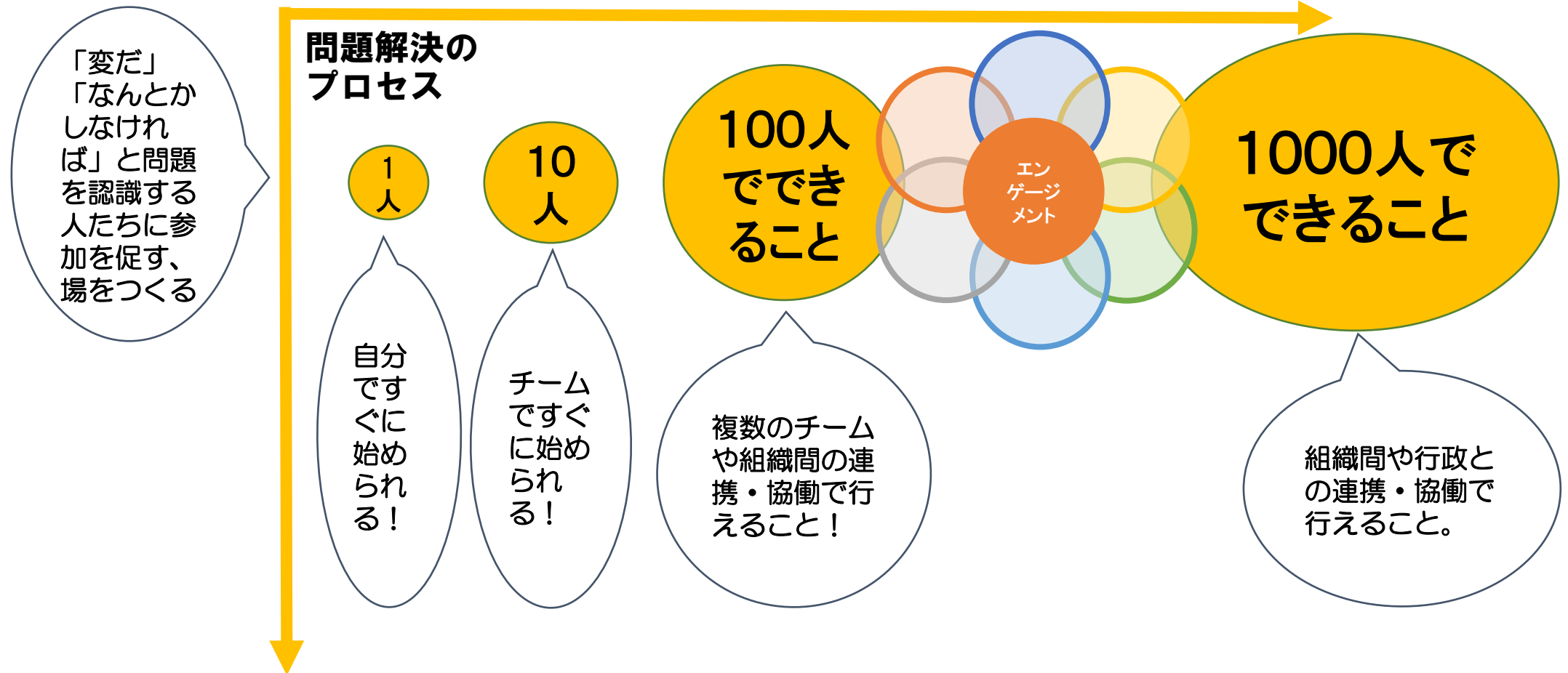
- ① 問題の**明確化**
- ② 問題を起こしている原因の把握と**優先順位**(プライオリティー)付け
- ③ その原因への**対策の実施**と再発防止

問題解決のプロセス



# 考え方のヒント:問題解決の基本手順②

## 市民参加による問題解決への取り組み



参考:「第4次海士町総合振興計画別冊2009-2018『海士町をつくる24の提案』」

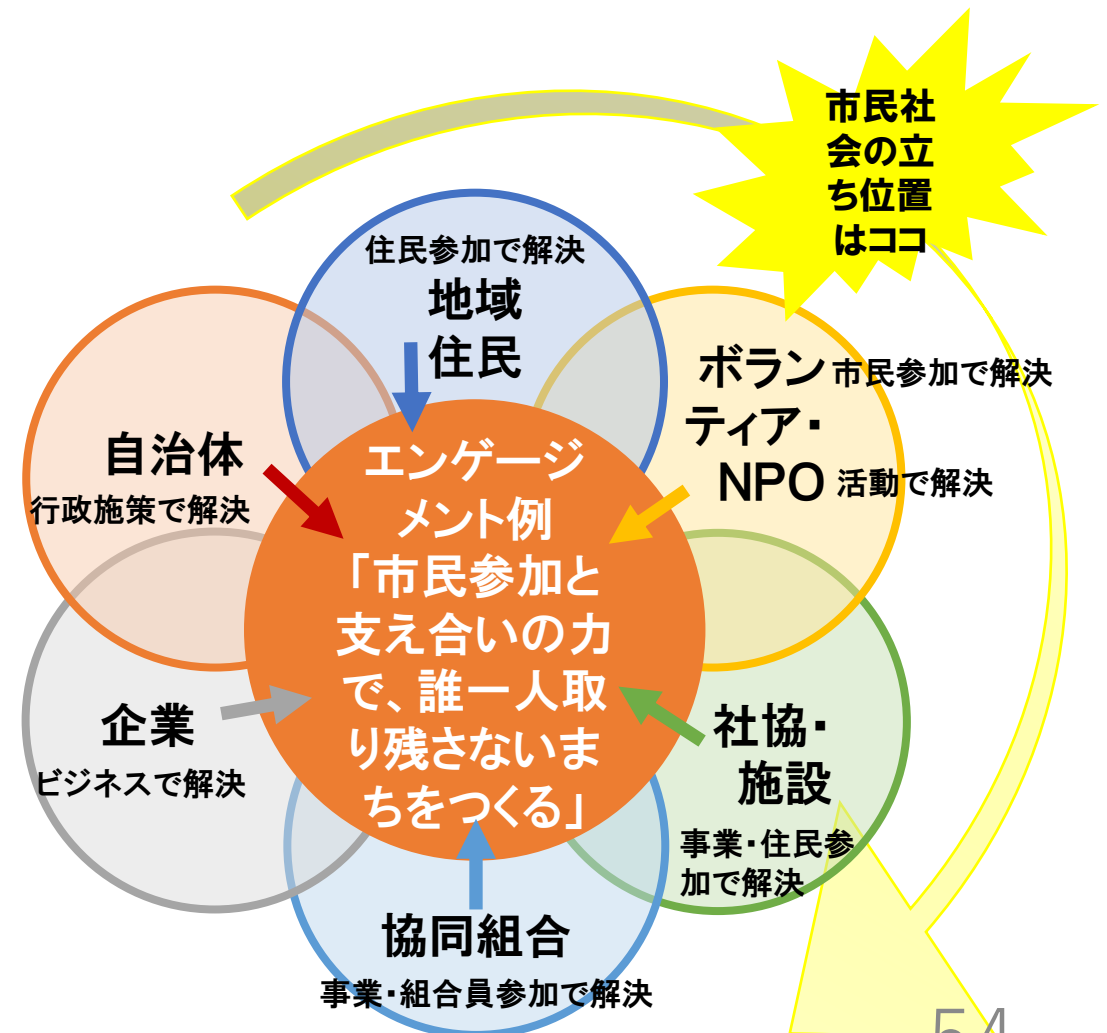
# 誰一人取り残さない“いまどきの協働” 1対1から多対多へ

## ● 進化する協働＝「マルチステークホルダーエンゲージメント」へ

- ・3者以上のステークホルダーが、対等な立場で参加・議論できる会議を通し、**単体もしくは2者間では解決の難しい課題解決のために、合意形成などの意思疎通を図るプロセス。マルチステークホルダー・プロセス型という。**

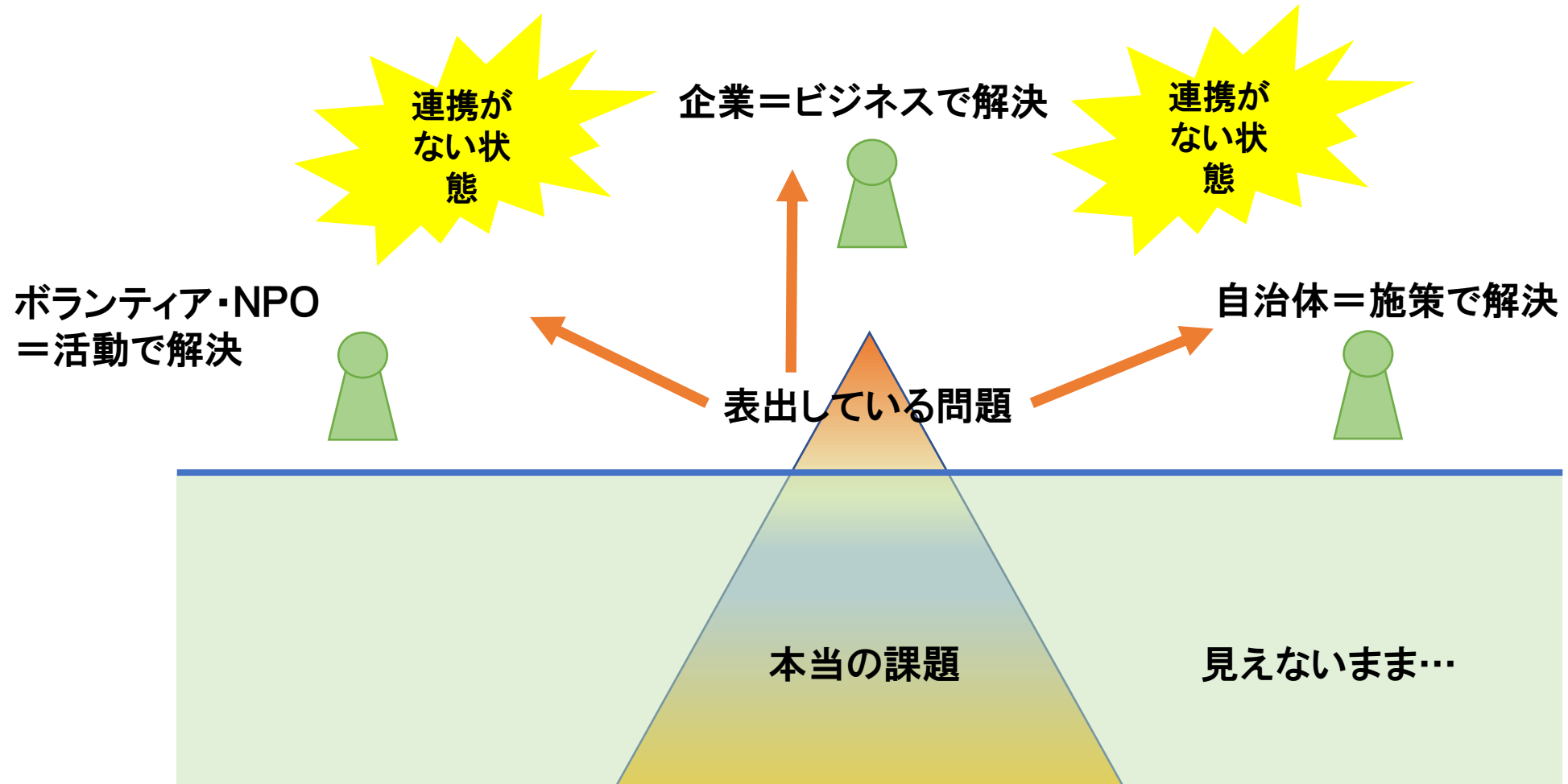
## ● 多様な社会問題に対応する＝「多様な担い手が責任を分かち合う必要がある」

- (ダイバーシティ研究所・田村太郎氏)
- ・1対1のパートナーシップではなく、**多対多のエンゲージメントで責任を分かち合う。**
- ・そのために、**「同じ現状認識」と「共通のビジョン」を共有する必要がある。**



# 考え方のヒント:これまでの課題解決アプローチ

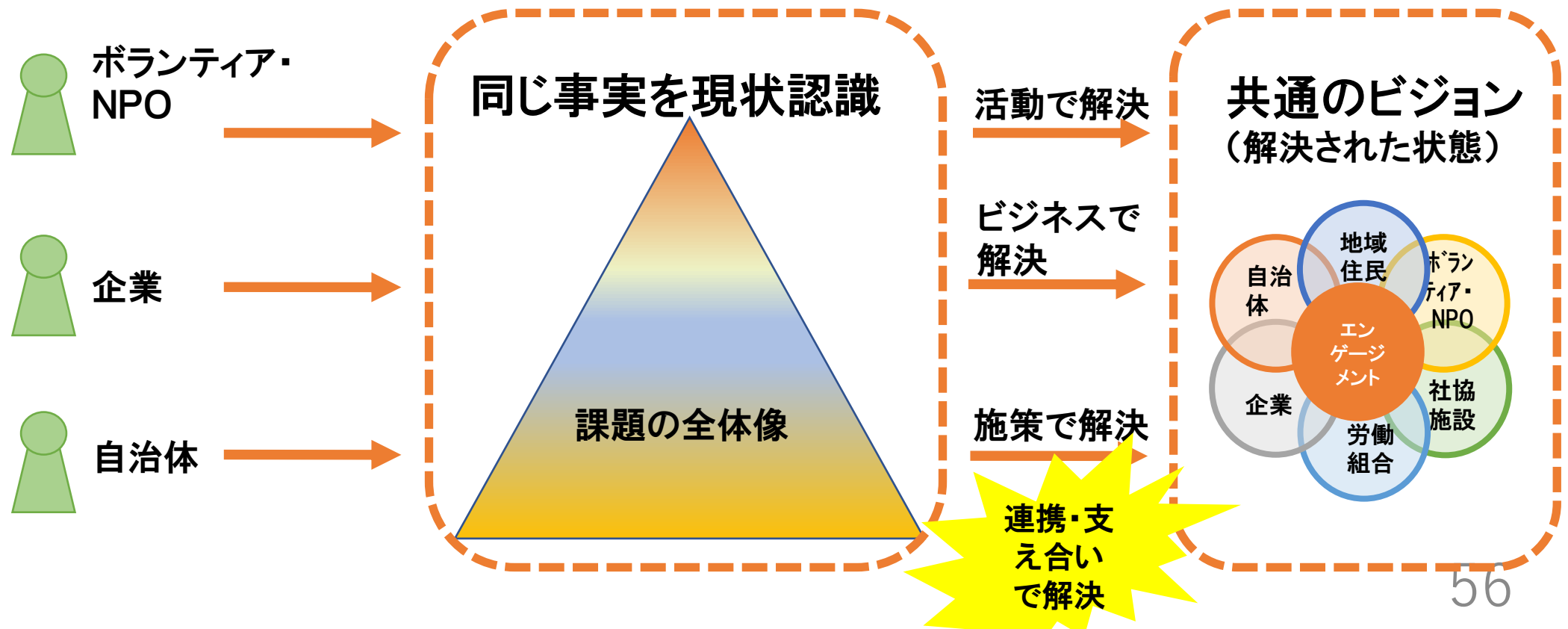
それぞれの担い手が一方的に支援 (ダイバーシティ研究所・田村太郎氏)



# 考え方のヒント:これからの課題分析・課題解決アプローチ

## 同じ事実を元に共通のゴールをめざす (ダイバーシティ研究所・田村太郎氏)

- 多様な担い手が連携して社会問題を解決するには、「**同じ現状認識**」と「**共通のビジョン**」を共有する必要がある





# 考え方の事例：おおさか災害支援ネットワーク(OSN)



大阪北部地震(2018年6月18日発生)を経験して、  
**「いつも」の関係が「いざ」というときに生きる**ことを心から実感。これからも「**まずお互いを“知る”こと**」から始めて、「**『まいど！』でつながれるゆ～るい関係づくり**」を大事にしていまっせ！  
さあみなさんご一緒に～！

## ●OSNのなりたち

「災害をテーマ」に学びと情報交換を行なうネットワーク

### ●設立：

2014年7月

### ●世話役団体（7団体）：

\*は呼びかけ団体

大阪市社会福祉協議会\*

堺市社会福祉協議会\*

大阪ボランティア協会\*

大阪府生活協同組合連合会・日本赤十字社大阪府支部・

日本防災士会 大阪府支部・ゆめ風基金

### ●定例会参加団体（2022年3月時点）：

設立から8年度で、メーリングリストに400アドレス参加。計20回開催、

累計延べ参加団体数883団体参加（社会福祉法人；社協・共募等、日赤、生協、組合、企業、社団・財団法人、NPO法人、ボランティアグループ、大学など40-60団体が各定例会に参加。専門部会も始動！

## ●人情とごちゃませ感がウリ!!

大阪は、人懐っこい人が多くて、困ってる人をほっとかへん人情のまち。

**みんなが主役**。OSNの世話役も7団体が**ごちゃませ**

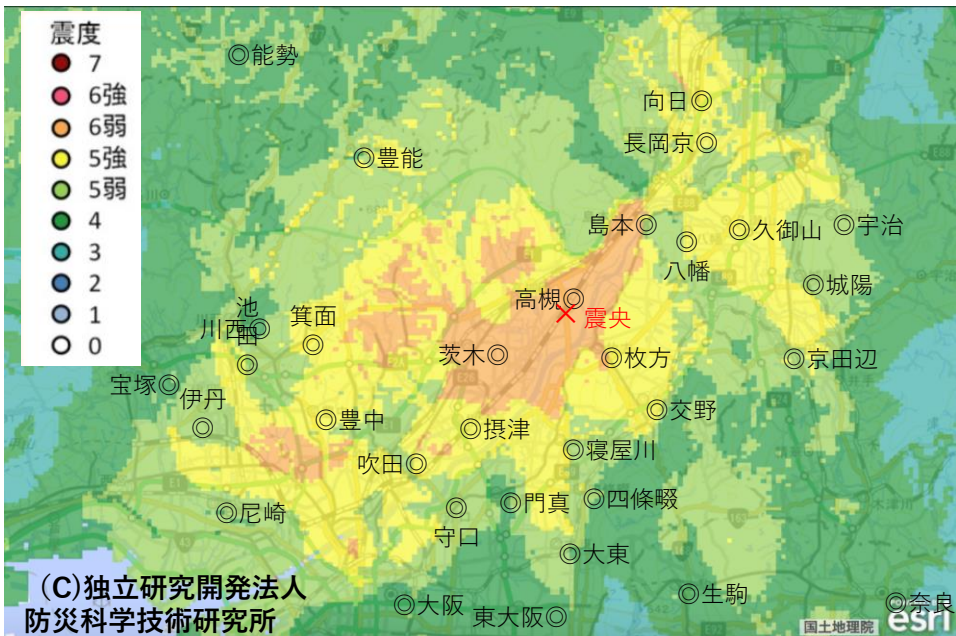
(マルチステークホルダー型) で、にぎやかに運営しています。

おおさか災害支援  
ネットワーク

— OSN —

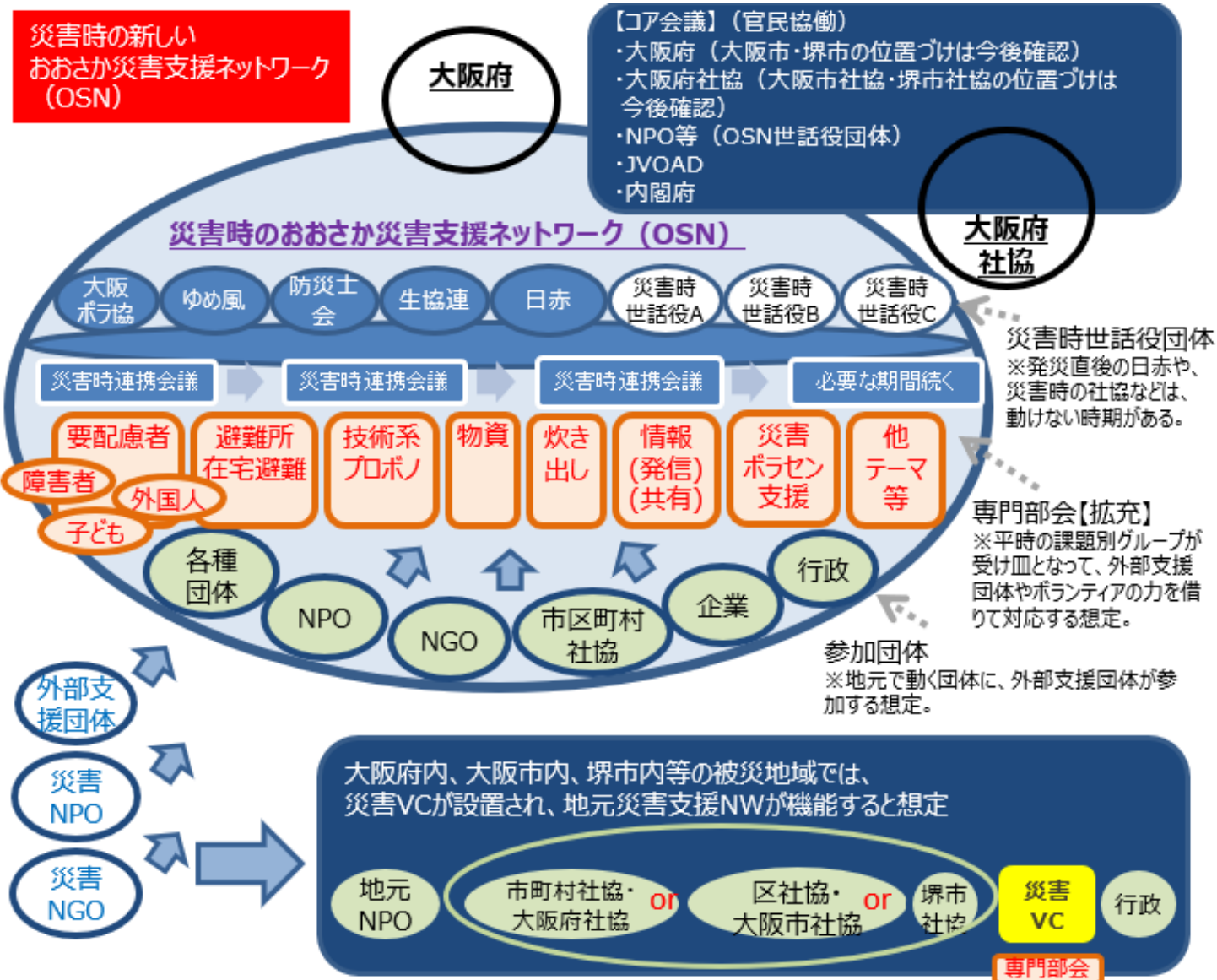


# 大阪北部地震を経験して、“脱皮”したOSN



- 発生日時：2018（H30）年6月18日(火)7時58分
- 各地の震度：【震度6弱】大阪市北区、高槻市、枚方市、茨木市、箕面市【震度5強】京都府京都市、亀岡市など18市町村
- 大阪府内の被害状況（2018年11月2日12時

人的被害	死者	6人
	負傷者	369人
住家被害	全壊	18戸
	半壊	512戸
	一部損壊	55,081戸
非住家被害		817件









# あるあるエピソード～災害時連携会議(情報共有会議)

ドローンを飛ばして屋根瓦の状況を確認できないか



知り合いにドローンの名手がいるよ!

OSNで  
コーディネ  
ート

ドローン  
調査実施

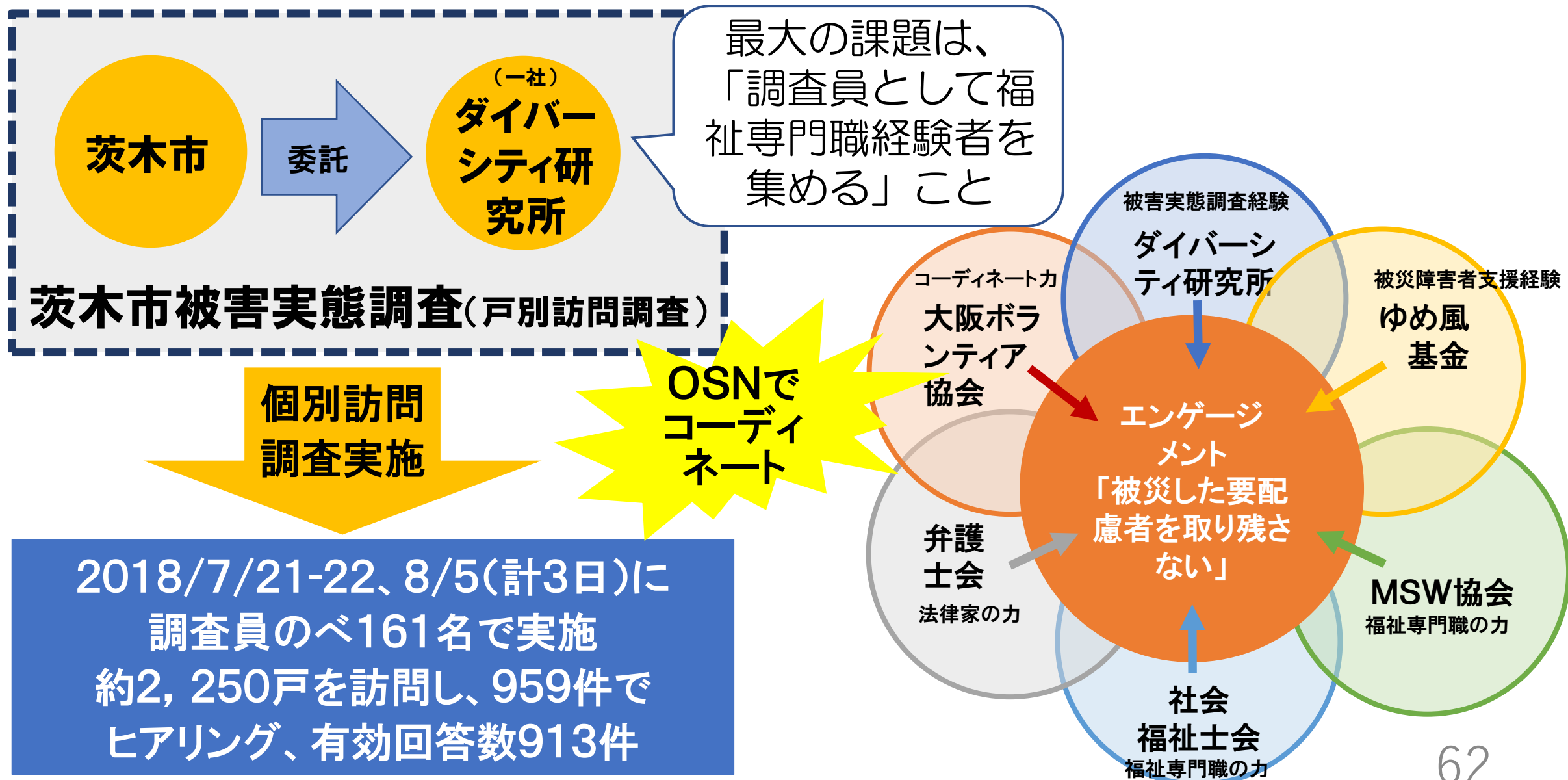
依頼10軒のうち9軒は対応の必要なし  
効率的・効果的な活動につながった







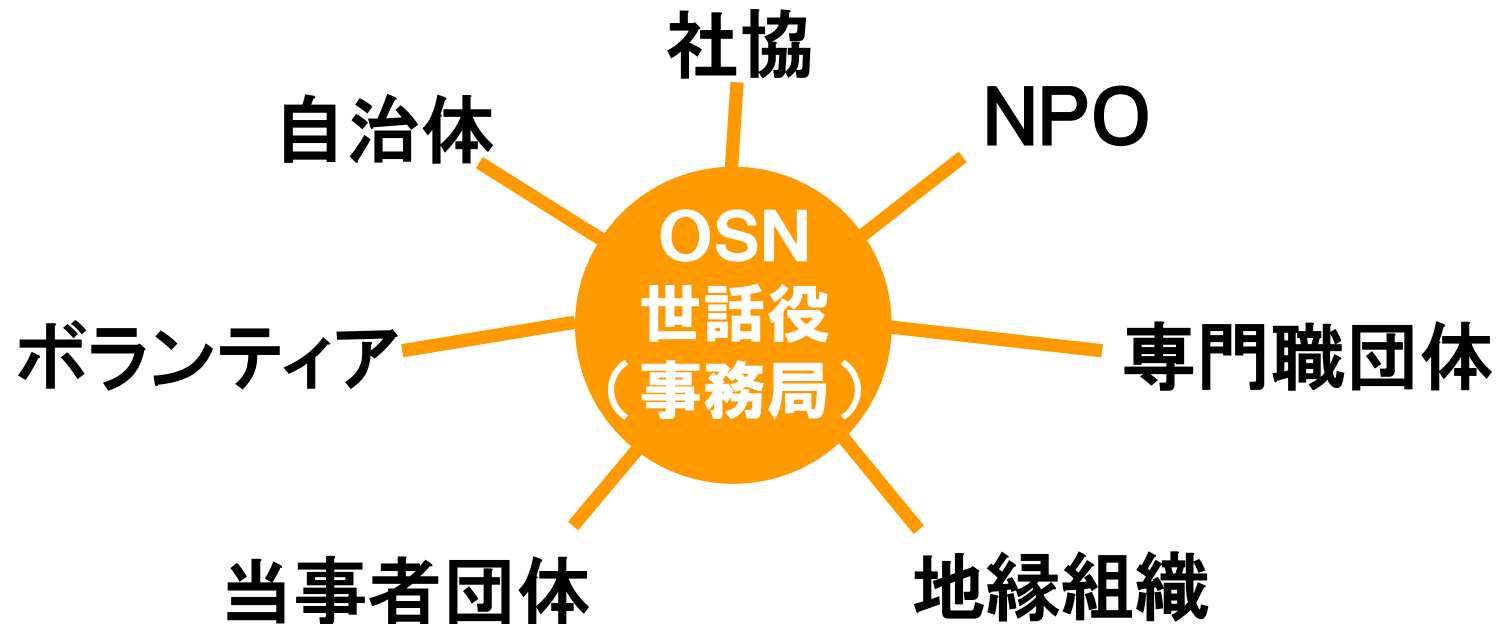
# あるあるエピソード～要配慮者支援部会(専門部会)





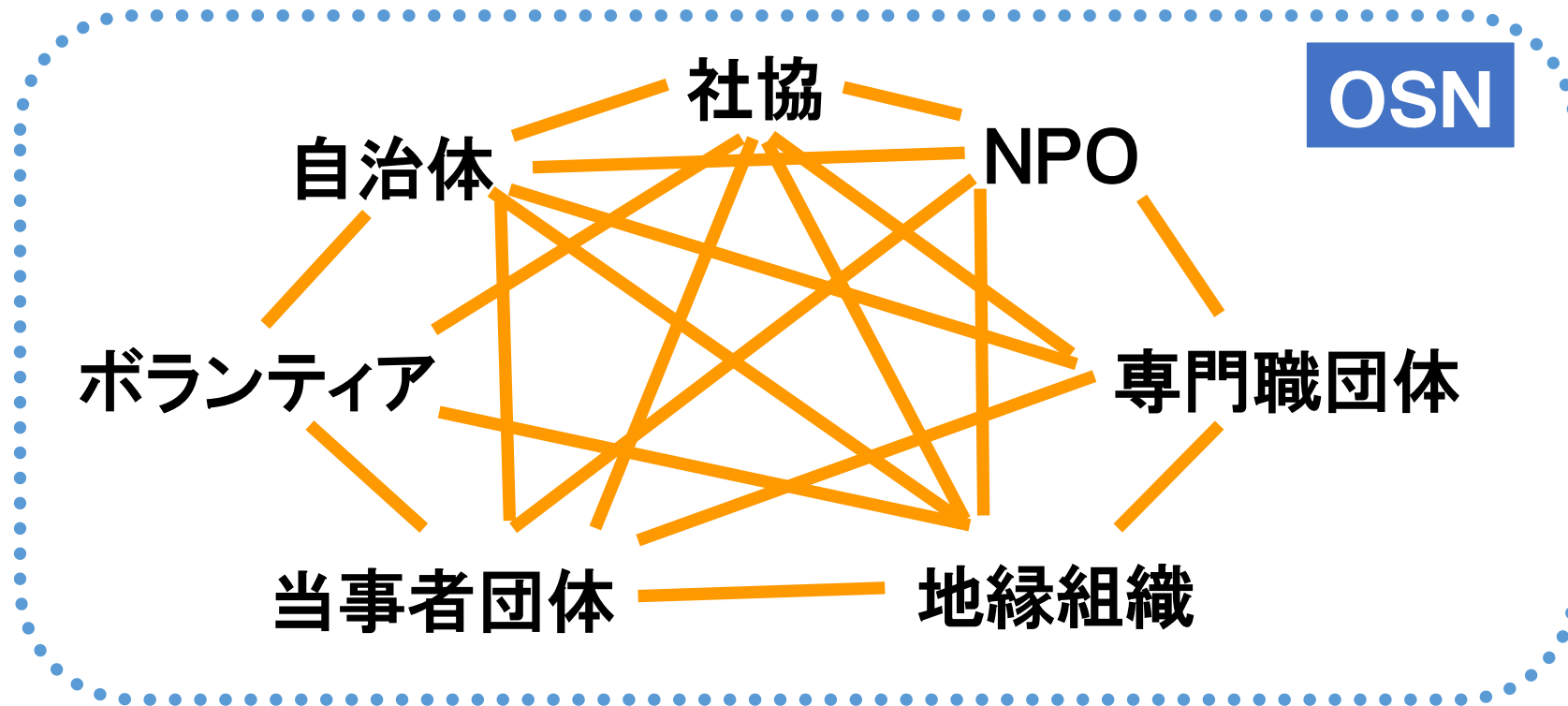
# OSNへの期待と現状のギャップ～周囲の期待は…

OSN世話役(≒事務局)が課題や資源をコーディネートし、積極的、主体的に課題に取り組むイメージで期待されている？



# OSNへの期待と現状のギャップ～現状(目指すもの)～

平時から、お互いを知り合い、顔の見える関係を築いて、いざというときに、各団体が主体となって連携する、ゆるやかなネットワークを目指しているのだが…



# 考察と考え方：持続可能なOSNに向けての課題

事務局  
機能

組織  
づくり

意思決定  
決裁  
ルール

コーディネ  
ート力

プログラ  
ム開発力

情報受  
発信力

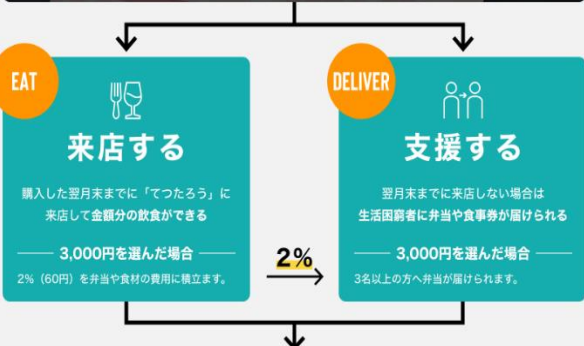
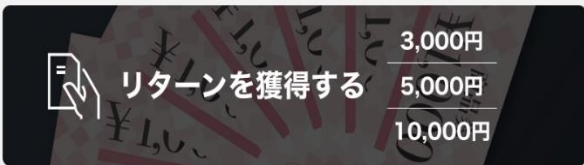
資金  
調達力

# 考え方の事例：誰一人取り残さない地域密着企業の取組み

**(株)フォーシックス(大阪市北区)の、飲食店と市民(店舗利用者)と困っている人達が食を通じてつながるプロジェクト「イーデリ」における企業と地域のつながり、その中のNPOの役割を紹介します。**

「1食の温かい心のこもった食事で、命が救われるかも知れない。」という可能性を信じて、「**EAT&DERIVER (通称：イーデリ)**」に取組む柳川さん。イーデリは、飲食店と市民(店舗利用者)とどこかで困っている人達が食を通じてつながるプロジェクト。**イートサブスクリプションと寄付による社会貢献を組合せて、NPOと連携して食の支援を展開。**

企業情報	
会社名	株式会社フォーシックス
代表	代表取締役・柳川 誉之
会社設立日	2013年1月
本社所在地	大阪府大阪市北区中崎西3-3-15
事業内容	飲食事業
従業員数	25名(パート・アルバイトを含む)
URL	<a href="https://forsix.jp/">https://forsix.jp/</a>



**イーデリ**  
支援を必要とする方々に、あたたかいお弁当が届く  
あなたのアクションによって、この社会のどこかで困っている人の日常を変えられる！

## イーデリの仕組みと実績 (2022/7/31→2023/3/15)

- 届けた弁当：  
2,734個→ **4,139個**  
(**1.51倍**)
- イーデリ支援者：  
524名→ **808名**  
(**1.54倍**)
- 支援総額：  
3,380,115円→  
**4,942,928円**  
(**1.46倍**)

### ■ 誰一人取り残さない取組み

動機は実兄の自殺。「あの時、何かできなかったのか」という思いを持ち続け、「誰かの自殺を防ぎたい」とNPOとともにホームレスへ弁当を届ける。

### ■ 地域課題とのつながり

自殺防止、ホームレス支援、若者支援、虐待防止、居場所づくり、教育支援に取り組むNPOと連携し、地域課題の解決に参画。全国の飲食店へ普及させたい。

### ■ SDGsとの関わり

1.2 (貧困状態を減らす) / 2.1 (栄養のある食料提供) / 3.4 (自殺防止) 等

### ■ 地域との連携・市民社会の役割

柳川さんのつながりで多様な人が出会い、新たなつながりと創発が起きている。

# 考察と考え方：誰一人取り残さない地域密着企業の取り組み

## ●SDGsがこの取り組みに果たした役割、SDGsへの貢献とは

### 【役割】

■SDGs視点でイーデリの取り組みを紹介することによって、本プロジェクトの認知度、共感度が向上し、市民・NPO・企業等の参加の輪が広がることに寄与

■柳川蒼之さん、海鮮居酒屋てつたろう、（株）フォーシックスの知名度・ブランド力向上に寄与

### 【貢献】

■居酒屋をはじめとする飲食事業者が、本業の食の提供を通して、パートナーシップで社会課題の解決の一助となる仕組みを創出したこと



ホームページ「イーデリ」  
( [https://tetsutarou.com/eat\\_deliver/](https://tetsutarou.com/eat_deliver/) ) より



ホームページ「イーデリ」  
( [https://tetsutarou.com/eat\\_deliver/](https://tetsutarou.com/eat_deliver/) ) より

# 考察と考え方：誰一人取り残さない地域密着企業の取組み

## ●地域密着企業、NPOへの波及を念頭に置いたときに、考えられる指標案

### ■経済面の指標：

イーデリの取組みによっててつたろうの

- ①顧客の意識変容（**共感度**） …社会的な取組みに共感するリピート客が多数
- ②関係人口の増減（**顧客数**） …リピート客が店をススメると増加
- ③経済効果（**売上**） …コロナ禍を乗り切る飲食店の持続可能性
- ④知名度向上（**メディア登場数**） …メディア登場が次のメディア取材の機会創出

### ■社会面の指標：

連携先NPOの課題解決度、たとえば、

- ①ホームレス支援団体を通じた弁当配布の結果、対象ホームレスの食生活改善が成される（**1日の食数・栄養バランス・自殺企図抑制など**）
- ②自殺防止団体の相談員の菓子等差入れの結果、相談員のメンタルヘルス改善（**相談員の活動期間や定着数・ストレス度チェックの結果改善など**）

異業種の繋がり、ネットワークの広がり度、たとえば

- ③繋がりによる事業の創出数

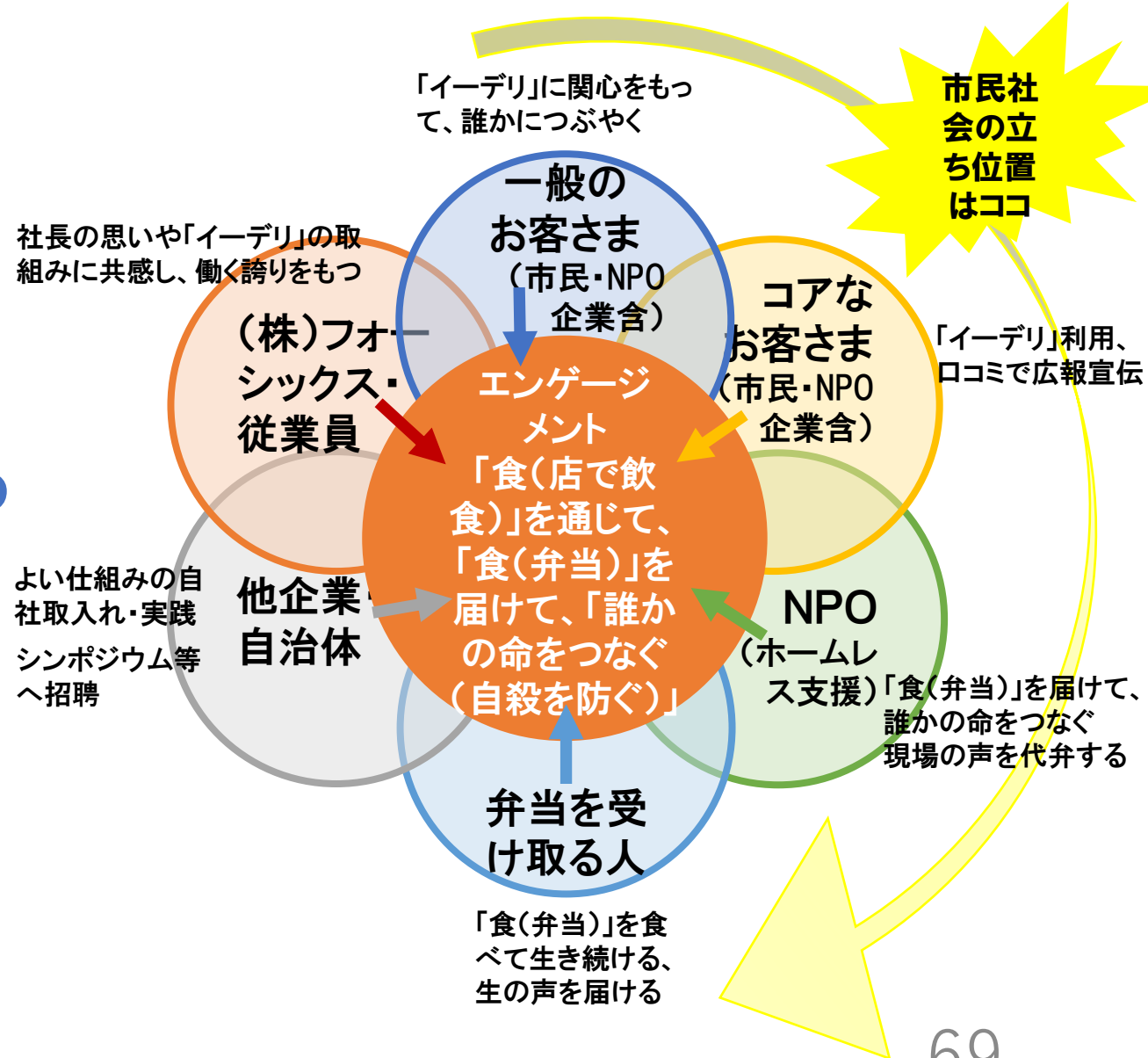


# 誰一人取り残さない“いまどきの協働”・市民社会の役割

## ●本事例における市民社会の役割

■イーデリに取組み続ける柳川誉之さん、海鮮居酒屋てつたろう、(株)フォーシックスを**推し、ファン層を厚く**することで、本業の飲食事業も食による社会貢献も持続可能なものとして確立すること。その結果、イーデリを通じて、NPOが支える人たちの現状が伝わり、**NPOの取組みの理解者が増える**。

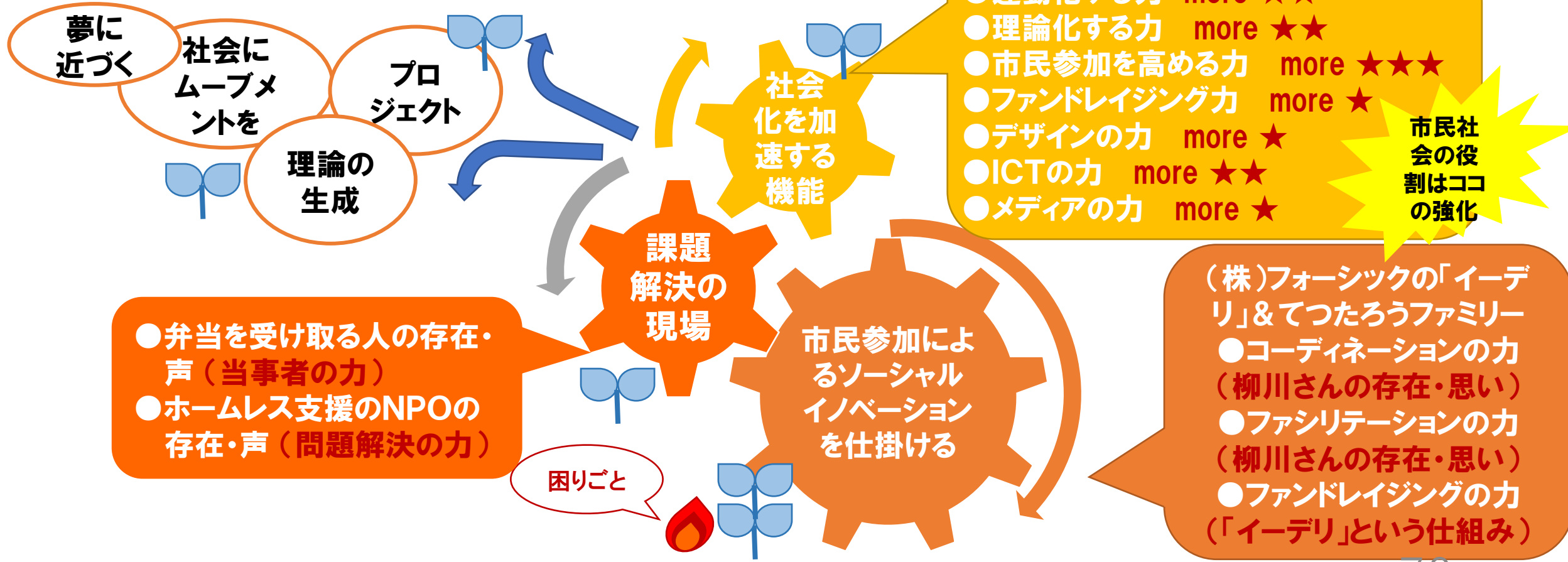
■“柳川さん個人の思い”から“**みんなのエンゲージメント**”に昇華させたことと、イーデリという仕組みと仕かけの参加のしやすさで、NPOとつながりやすくなり、NPOが支援する取り残されがちな人への支援の輪が広がっている。**運動・キャンペーンとなり、連帯感が高まっている**。



# 誰一人取り残さない“コーディネーション”・市民社会の役割

## ●本事例を俯瞰的に見て、市民社会の役割を考えると

マルチステークホルダー型エンゲージメントになるよう、市民社会は“プロデューサー”の役割を意識し、歯車が回りうねりをつくり出せるよう、コーディネーション機能が鍵となる



# あなたのことばで「to do宣言」( / / 付)

①私の一番の「気づき・まなび」はコレ！

②私の「今日からやること宣言」はコレ！



止まない雨はない 明けない夜はない  
ご清聴、ありがとうございました。変革に向けて、ともに行動しましょう。